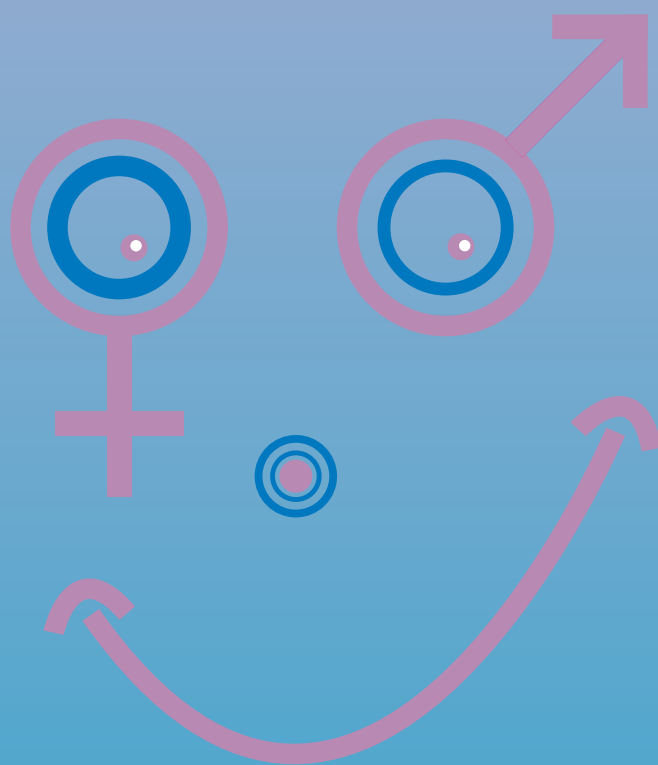


公平な性と環境

Gender equity & the environment

なぜ性差が問題になるのだろうか？
環境に対する考え方を変えた女性たち



環境運動をするおばあちゃんたち

働く女性たち

ケララ、公平な土地

将来の環境運動のリーダーたち



TUNZA

もくじ

～「TUNZA」とは、スワヒリ語で“愛をこめて大切にみつかう”という意味です～

TUNZA

インターネット上でも見ることができます。

英語版→www.ourplanet.com and
www.unep.org

日本語版→www.ourplanet.jp

<英語版> Vol.4 No.4

United Nations Environment Programme (UNEP)

PO Box 30552, Nairobi, Kenya

Tel (254 20) 7621 234

Fax (254 20) 7623 927

Telex 22068 UNEP KE

E-mail: unepub@unep.org

www.unep.org

Director of Publication Eric Falt

Coordinator Wondwosen Asnake

Editor Geoffrey Lean

Guest Editors Karen Eng and Claire Hastings

Nairobi Coordinator Naomi Poulton

Circulation Manager Manyahleshal Kebede

Youth Contributors Preetam Alex, India; Nina

Best, Brazil; Luis Carlos Campiz Mercado,

Colombia; Pedro Chaffe, Brazil; Fika Fawzia,

Indonesia; Manisha Ganeshan, India; Alfredo

Gersava Jr, Philippines; Margaret Koli, Kenya;

Marina Mansilla Hermann, Argentina; Tanya

Mowbray, United Kingdom; Julien Paquin,

France; Gabriel Rocha, Colombia; Elissa Smith,

Canada; Renny Turangga, Indonesia

Other Contributors Julia Horsch, Bayer;

Barbara Kingsolver; Martin Palmer, Vicky Finlay

and Xiaoxin He, ARC; Rosey Simonds and David

Woollcombe, Peace Child International

Design Daniel Lopez Zamora, Ecuador

Front cover Edward Cooper, Ecuador

Web Editor Graham Barden

Production Banson

Head, UNEP's Children and Youth/Sport and

Environment Unit Theodore Oben

Printed in the United Kingdom

<日本語版> 通巻8号

編集兼発行人: 宮内 淳

編集・発行所: NPO法人地球友の会

東京都中央区東日本橋2-11-5 (〒103-0004)

電話03-3866-1307 FAX 03-3866-7541

翻訳者: NPO法人地球友の会 大井上恒男

翻訳協力者: 桑原百代

デザイン: Daniel Lopez Zamora, Ecuador

制作: (株)セントラルプロフィックス

印刷・製本: (株)久栄社

協力: 東京都中央区

UNEP国際環境技術センター (IETC)

助成: 連合・愛のキャンパ

Printed in Japan

* 「TUNZA」日本語版は、日本語を母国語とする人々のために国連環境計画(UNEP)に代わって出版するもので、翻訳の責任はNPO法人地球友の会にあります。

* 本誌の内容は、必ずしもUNEPおよび編集者の見解や政策を反映するものではなく、公式な記録内容でもありません。また、本誌で採用されている名称ならびに記述は、いかなる国、領域、都市やその当局に関する、あるいはその国境や境界線に関するUNEPの見解を示すものでもありません。

* 本誌の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

* 本誌は非売品です。

この印刷物は、「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPにより製版しています。本誌は再生紙を使用しています。



| | |
|--------------------|----|
| はじめに | 3 |
| 野生の驚異 1 | 4 |
| なぜ性差が問題になるのだろうか? | 4 |
| 平和をもたらす | 5 |
| TUNZAが答えよう | 6 |
| 貧困者のための銀行 | 7 |
| 将来の環境運動のリーダーたち | 8 |
| 夢を築く | 10 |
| 野生の驚異 2 | 11 |
| 働く女性たち | 12 |
| 世捨て人でなく | 14 |
| すべてのことに配慮する | 15 |
| スーパーウーマン | 16 |
| 女性と環境の名士録 | 18 |
| 自分たちの谷を緑に | 18 |
| 料理とは? | 19 |
| TUNZAに捧ぐ | 19 |
| 世代の隔たりを埋める | 20 |
| 貧乏、でも豊か・・・ | 21 |
| 環境に対する考え方を変えた7人の女性 | 22 |
| 千葉大学の環境への取り組み | 24 |
| 北東アジア青年環境ネットワーク | 26 |

UNEPは、ドイツに本社をおくヘルスケア・農業関連・素材科学の世界的企業バイエルと連携して、若者の環境意識を高め、子どもたちや青少年が環境問題に関心を持ってくれるよう活動しています。

これまでアジア太平洋地域で10年近くにわたり、いくつかのプロジェクトを協力して行なってきたUNEPとバイエルは、パートナーシップ契約を結ぶことで、現在進行中のプロジェクトをステップアップし、他の国々にもその成

功例を広げ、若者のための企画を推進していけるようになりました。それらのプロジェクトには以下のものがあります。

機関誌「TUNZA」; 国際子供環境絵画コンテスト; UNEPとの共同によるバイエル青少年環境使節; UNEP・TUNZA国際青年会議; アジア太平洋青年環境ネットワーク; アジア太平洋エコ推進フォーラム; ポーランドのエコフォーラム; 東ヨーロッパでの写真コンテスト「エコロジー・イン・フォーカス」



Partners for Youth
and the Environment



かっこいい & もっとかっこいいやり方 Cool & Cooler

かっこいい:車ではなく環境にやさしい列車を使って、最愛の人たちに会いに行く。

もっとかっこいい:ウェブカメラ、あるいはスカイプ(=IP電話)、アイチャット、ネットミーティングのようなプログラムを使って、安く、あるいは無料で相手の顔をみながら通話する。

最高にかっこいい:空気で走る車。フランスのMDI社(Moteur Développement International)では、ピストンが圧縮空気で駆動される軽量の車を開発した。都市の中で車が空気のみで走り、したがって汚染物質は排出されない。長距離を走る時やスピードを上げる時は、二元エネルギー方式になっているエンジン——石油燃料とバイオ燃料の両方が使用できる——を燃料モードに切り替え、搭載されたコンプレッサーを動かして空気タンクを補充する。

かっこいい:地域で育てた食物を食べる。

もっとかっこいい:あなた自身で食物を育てる。ひとつの簡単な方法としては——都会や不毛な土地であっても——リサイクルされたプラスチックの箱に専用の肥料添加装置や効率のよい灌漑システムを取りつけた「アースボックス(EarthBox)」を利用することである。国連食糧農業機関(FAO)とアメリカの園芸協会によって推進されているキャンペーン「グローイング・コネクション(The Growing Connections)」では、このアースボックスをメキシコ、ガーナ、そしてニカラグアをふくむ世界中の若者たちに紹介している。

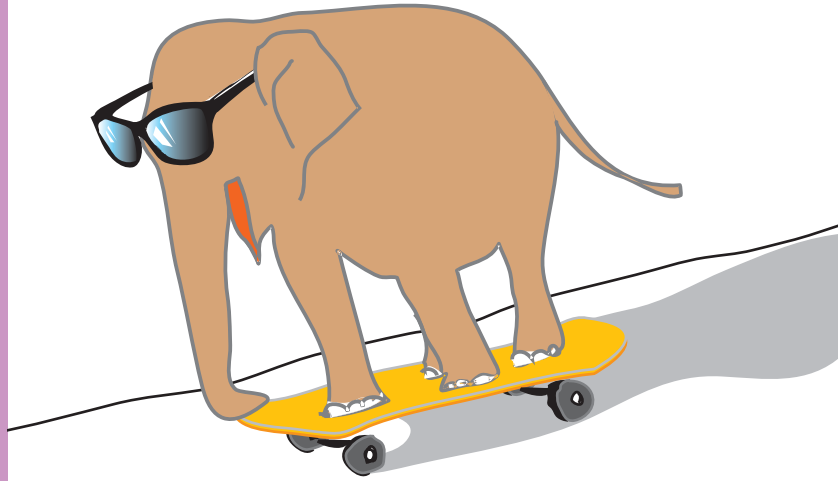
かっこいい:プラスチックの袋やボトルをリサイクルする。

もっとかっこいい:ノエル・ハーディングによる環境彫刻「屋上湿地(Elevated Wetlands)」では、トロントのドン川岸沿いに、リサイクルされた廃物プラスチックから作られた代用土壌を使用して、草やカバの木や常緑樹を育てている。太陽電池で動くポンプで汲み上げられた川の汚水は、ろ過装置としても機能する彫刻の中を通り、植物を養うと同時に、濾されて清浄な水になる。

やや暑くてもかっこいい:自動調整の温度の設定を高めにする。

より暑くて不恰好でもかっこいい:毛布の中で丸まる。

国連環境計画(UNEP)は、世界中で環境にやさしいやり方を推進すると同時に自主的な活動を行なっています。本誌は、100%リサイクルで塩素分をふくまない紙を使用しており、植物性インクで印刷されています。



はじめに Editorial

わたしたちは「母なる自然」という言い方をします。そして、何世紀ものあいだ、詩人や劇作家たちは自然を女性として表現してきました。しかし、「人類」が土地を開いて農業を始めて以来、ほとんどいつも自然の命運を握っていたのは男性でした。そしてそれは、現在地球が直面しているきびしい環境危機の一因かもしれません。

一般的に女性は、地球とともに暮らし、それを気にかけ、そしてそれをはぐむ必要性をより身近に感じているようにみえます。ひとつにはこれが女性的なアプローチだからであり、ひとつにはそれが常識であるからですが、もうひとつ、女性が——特に途上国においては——自然環境により近く接しているだけでなく、それが損なわれた時には最も被害を受けるからでもあります。

しかし、これまで母系社会もいくつかあったものの——それについて確立されたものはほとんどなく——世界を支配し、滅ぼしてきたのは男性であり、男性の価値観です。国連開発計画(UNDP)の「人間開発報告書」にあるように、女性と男性が真の平等を享受している国は、現代もなおひとつもありません。世界の大半で、読み書きできる女性は男性より少なく、中等教育に進む女子は男子より少ないのが現状です。先進国であろうと途上国であろうと、至るところで女性の収入は低めで、家庭を切り盛りしたり子どもを育てたりする女性の働きは、経済的に価値のあるものとみなされていないのです。

さらに悪いことに、女性は、地球とその住民の将来を定める決定には、ほんの少しの役割しか与えられていません。事態は昔より改善されており——国家の女性立法府議員の数はこの60年間で4倍に増えました。しかし途上諸国では、いまでも議員の女性の比率はわずか15.3%にすぎません——この数字は先進諸国でもほとんど変わりなく、たった21.1%です。

もちろん、なにごとにも容易に結論付けるべきではありません。多くの男性は情熱的に環境に立ち向かっていますし、環境破壊を助長する道具となっている女性も少なからずいます。しかしながら、意思決定における男女間のバランスをよりよく取ることが、ひいてはわたしたちが自然とよりよくバランスを取る上で助けになるということは、ほとんど疑う余地がありません。

野生の驚異 WILD THINGS



John Cancalosi/Still Pictures

タガメ

昆虫のオスは、ふつう子育てをすることはない。しかし、タガメ——最大で全長5センチ、幅2.5センチ——は喜んでその重荷をせおうつもりだ。交尾中、メスはオスの背中におよそ100個の卵を貼り付け、去って行く。オスは一カ月のあいだ、シングル・ファーザーとして子供たちを背中に乗せて運び、酸素を供給するために卵を水中でゆすり、なでつけ、そして感染を防ぐために日光に当てて乾かす。いったん卵がふ化し、幼児たちが泳ぎ去ると、彼は誤って子孫を飲みこまないように、何も食べなくなる。

白鳥

白鳥は、生涯つがいを守ると長いあいだ思われてきた。しかし、DNA技術の進歩によって、これはロマンチックな創作だとわかった。科学者たちは、つがいの巣の中の卵が何羽かの異なった父親のものであることを発見した。これは、白鳥が社会的には一夫一妻であっても——長いあいだカップルで一緒に過ごし、



Bruce Montagne/UNEP/Topham

子供を一緒に育てたとしても——生殖面では必ずしもそうではないことを示している。これをオープンな結婚とか、スワン風と名付けるべき雑婚風と呼んでもいいだろう。

アリゾナ州ソノラン砂漠に生息する 鞭尾に斑点のあるトカゲ

北アメリカ産のソノラン・スポットテッド・ホイップテールは、15の同類種のひとつで、メスのみで構成されている。この単性トカゲは2種の両性種(オスとメスの両性器官を持つ)の雑種の子孫である。ふつう、異種間では生殖能力のない子のみが生まれるが、この場合は精子なしで繁殖する能力のあるメスが生まれる。成体になるとそれらは未受精卵を産み、それらがさらにより多くのメスにふ化するのである。これは単為生殖と呼ばれる一種の無性生殖だ。



John Cancalosi/Still Pictures

なぜ 性差が問題に なるのだろうか?

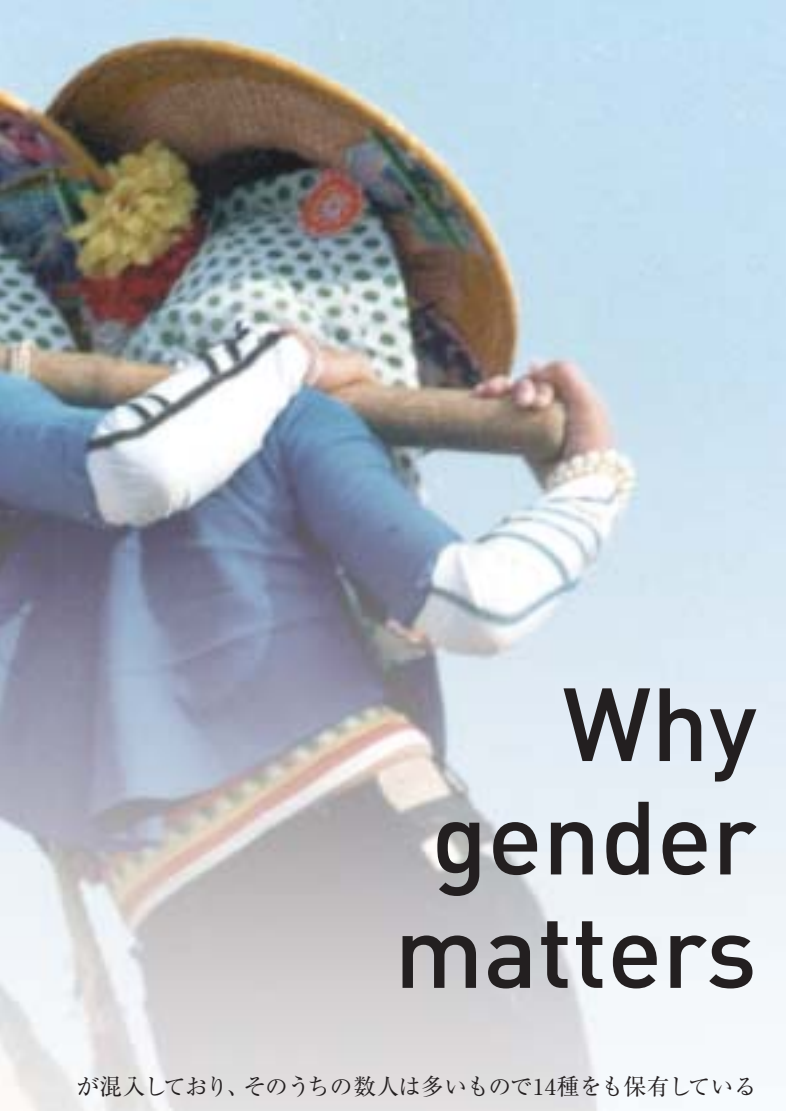
女性が空の半分を支えている」ということわざがある。実際、地球の世話をやくことに関しては、女性は自分の分担以上のことをしている。そして、彼女たちは男性たちに比べて自然や土地により密着して生活し、仕事をしているので、環境の汚染や劣化によってより多く苦しむことになる。彼女たちは地球の将来のための闘いの最前線にいる。

途上国において、女性は家族を養うための食料を育てる責任のほとんどすべてを担っている。たとえばサハラ砂漠以南のアフリカでは、彼女たちは地域のすべての食料の90%以上を生産し、市場に出す。それで、彼女たちは土壌の浸食や森林伐採の影響をまっさきに受ける。

樹木が伐採されるにつれ、通常、女性たちが燃料と水を確保するにもまた、より多くの時間がかかるようになった。そう昔のことではないが、インドのグジャラート州の女性は4日か5日おきに薪集めに出かければすんだ。今では彼女たちは、このひどく骨の折れる仕事に毎日5時間から4時間を費やしている。インドの女性たちが水くみの仕事のために費やす時間は、全員の分を積算すると、驚くことに年間1億5千万日に達する。そして南アフリカでは、女性たちは毎日、月へ16回往復するのに相当する距離を歩いていることになる。

燃料と水は、ともにしばしば病気を家に持ち込んでしまう。清潔でない飲料水は、病気の原因となって年間3百万人以上を死なせ、その大部分は子供たちである。そして、家族の世話役である女性たちが無理をして体を痛める。一方では、薪を燃やした煙が貧しい者の住居に立ちこめ、多量の有害汚染物質を運び込んで、毎年さらに150万人を死なせる。ほとんどが長時間を屋内ですごす女性や子供たちが被害者だ。

また、女性は男性に比べて脂肪が多く、そこに蓄積する有毒成分を体内にたくわえやすいため、一般的に化学汚染に弱い。さらに彼女たちは、そうした有毒成分をお腹の子に移したり、母乳を通して与えた



Why gender matters

が混入しており、そのうちの数人は多いもので14種をも保有していることを発見した。

スーダンとアメリカ合衆国のように異なる国でも、それぞれ殺虫剤にさらされた母親から生まれた子供たちは、出生後まもなく死亡する可能性が高いことが判明している。北アメリカの五大湖の近くで、有害なポリ塩化ビフェニール類(PCBs)にさらされた女性から生まれた子供たちは、格段に知能が低くて運動機能の発達も遅れ、他方では、“オスの生殖系の非オス化”を引き起こすある種のフタル酸エステルに汚染された母親から生まれた男の子が、生まれつきペニス小さめだったり、そのほか性器の女性化の徴候があったりした。

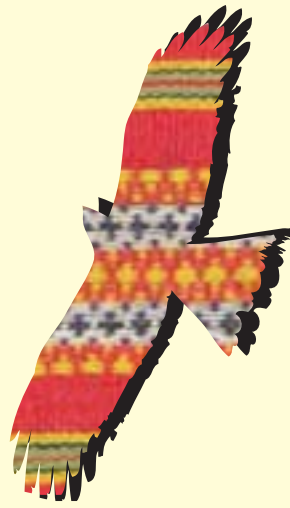
したがって、女性が環境との闘いの先陣にいるのは驚くべきことではない。女性たちは北インドで森林伐採を止めるチップコ(Chipko)運動を始めた。ある調査によれば、シエラレオネでは、女性たちは樹木の効用を31個も挙げることができたのに、男性たちはたった8個しか知らなかった。さらに、女性たちが貴重な食用作物類を保護することもよくある。タイの女性たちが切り盛りしている60ヵ所の家庭菜園を調べたところ、230種の異なる野菜やその他の植物種が見つかり、多くが近隣の森が切り倒される前に保全されていた。ガーナでは、女性に割り当てられた土壌は男性が耕す土地よりも長く肥沃さを保っている。また、英国の有機栽培農家の半数は女性で、国全体の農民の女性が占める割合の10倍になる。

女性は男性に比べて、環境の必要とするものに合わせてよりよく調整を行ない、その保護にもより献身的であるように見える。しかし、世の中をいかに動かしていくかの決断を下すための同等な権利が女性に与えられない限り、たとえ話としてわれわれの頭上に空が落ちてくるようなことがあっても、それを止める機会はほとんどないのである。

UNEP/Topham

平和をもたらす

Making peace

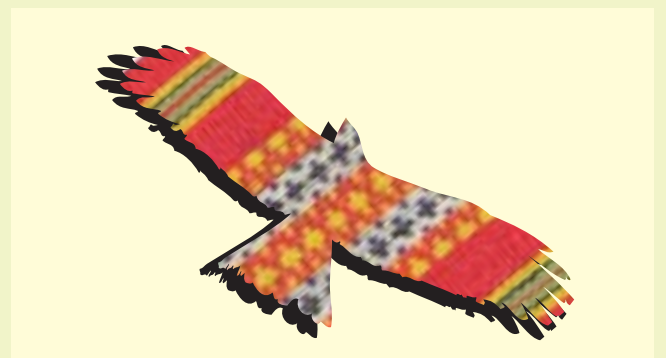


この世のはじめに、海の女神マグワエンと、空の神カプタンだけがいいた。二人はひどい競争相手だった。マグワエンは渦巻きやハリケーンや津波を引き起こし、そして、カプタンは落雷や雨や稲妻で応酬した。落雷や雨が海を襲うと、マグワエンは呪文をとこなえて天に届く嵐や波を起こそうとした。彼女を止めるために、カプタンは海の中に石を投げ込んだ。彼らの戦いは果てしなく続き、石は積もってフィリピンの島になった。

1羽の鳥——トビ——が、マグワエンとカプタンの争いで絶え間ない嵐と雨のごとく降りそそぐ大石の中、休みなく海面を飛び続けねばならず、苦痛をしいられた。トビは海の神と空の神を毎日水平線で2回会うように説得し、両者のあいだに平和をもたらそうと試みた。時間とともに、この敵同士は友だちになり——それから恋におちた。

マグワエンとカプタンの愛が実り、小さな竹の種がひとつの島のそばにある浅瀬に落ちた。それは背の高い竿に育ち、やがてトビの止まり木となった。その竹の内部から声が聞こえた。「おお、どうか鳥の王さまよ、わたしたちを外に出して下さい」。トビは竿が自分に話しかけるのは奇妙なことだと感じたが、それは再び話しかけた。「おお、慈悲深い親切な鳥さんよ、どうかわたしたちを外へ出して下さい」。

用心深いトビがどうしたらよいか考えているうちに、小さなトカゲが竿にじゃれついた。反射的にトビはトカゲを激しくつつき、竹が割れた。竿の中からゆっくりと、美しい女性とたくましい男性が外へ出てきた。彼らは最初の人間たちだった。やがて彼らは結婚し、多くの子供をもうけ、地球を人で満たした。



Q&A

TUNZA が 答えよう TUNZA answers your questions

Q 性の公平と性の平等とはどう違いますか？ そして若者が性の公平を推進するために、何ができますか？

A 性の公平とは、女性と男性の両方に公正なことだ。それは平等をもたらす前提条件であり、平等へとつながっていく。性の平等は、資源、機会、そして報酬へのアクセスが平等であることで——男性と女性が真に一緒になって働けるようにするものである。若者は生活のあらゆる側面において、皆が同じ機会、権利および義務を与えられるように——そして彼ら自身と将来の世代が過去の性差による不均衡に苦しまないように確実にしていく特別な責任がある。

Q 女性は環境への心づかいが男性よりすぐれているのですか？ もしそうなら、どうしてですか？

A 世界の多くの地域において、女性は食料、水、暖房、そしてその他の資源を子供たち、さらには家族全員にまで準備する立場にある。生存のために、多くの女性が自然に対して深い理解を持つようになり、われわれの天然資源の管理と保全の最前線に立つようになった。

Q レイチェル・カーソンやバーバラ・ウォードのような女性作家は、1960年代に近代の環境運動をスタートさせる中心的役割を演じました。彼女たちの著作はいまでも重要性を持つものでしょうか？

A 二人の女性たちはともに環境、貧富の不均衡、そしてすべての人類の健全な暮らしについて熱心だった——そして、われわれが現在直面している持続可能性の危機について、最初に警告を発した人物に入る。彼女たちの著作は、むしろこれまで以上に実際的な価値を持っている。

Q 田舎に住む女性たちの暮らしに、清潔な水が安全かつ身近に供給されることは、どんな影響がありますか？ わたしたちは、どうすれば清潔な水が万人に行き渡るようにできるでしょうか？

A 女性や少女たちは、世界の多くの地域で水の供給を担い、何時間も歩いて水をくみに行っている。近くに給水設備があれば彼女たちの負担は減り、その節約した時間でもっと多くの少女が学校に通うことができる。清潔な水へのアクセスは、さもなくば水系感染性疾病で奪われたかもしれない子供たちの命を救

い、母体の健康改善にも役立つ。われわれは政府と民間団体に圧力をかけて、安全で入手可能な水をすべての人たちに供給するために投資するよう働きかけるとともに、直接影響を受ける人たち——特に女性——みずからが、そうした意思決定に参加するよう保証せねばならない。

Q もし、家族計画をふくめた医療サービスがもっと女性たちの身近にあったら、環境の面でも利点がありますか？

A インディラ・ガンジーは、貧困を“最大の汚染源”と呼んだ。健康な家族を持つ健康な女性は——近代的な医薬品と、生殖に関する医療サービスを利用でき、何人の子供たちをいつ産むか決定できる力が与えられれば——家族の経済的安定に寄与でき、健康な家庭と健康な地域環境を保つことがより可能になる。しかしながら、国が発展し、人々が貧困から脱出して行くにつれて消費レベルが上がるといった、環境に影響を及ぼす多くの要因が入り込んでくる。

Q 多くの地域において、女性が土地の所有を許されないという事実は、環境に悪影響がありますか？

A 土地の所有権は、人々に環境の利用を管理する権利と責任を与える。それはまた、われわれにとって自然界への最も強固なつながりでもある。多くの女性たちは、土地を所有したり相続したりする権利を持っておらず、それはつまり、自分たちの天然資源を大事にする権利がないことになる。これは彼女たちの生活において、他の形の不平等の原因ともなっている。土地の所有権は彼女たちに力を与え、信用取引や地球の機能を維持するその他の経済活動に参加する機会を与えてくれる。

Q 女性の教育を改善することで、環境にどんな影響があるでしょうか？

A 教育を通して、地域社会は劣化した環境がもたらす危険性について気付くようになる。教育によってまた、環境資源を利用し管理する女性の能力が高まり、家族、ひいては地域社会全体に影響するような意思決定でより大きな役割を演じるための権限を与えられるようになる。それはまた、彼女たちがより小さな家族構成を志向することで環境への圧力が軽減される可能性を示している。そしてもちろん、男性であれ女性であれ、よりよい理解はよりよい判断へとつながる。

環境問題について、UNEPの専門家に質問はありませんか？

unepub@unep.org まで質問を送って下さい。次号以降でお答えするように努力します。

貧困者のための銀行

Banking on poverty



Donna Morris/FINCA International



Shehzad Noorani/Still Pictures

27ドルで世界の貧困を打ち負かせるって？ 経済学者のムハマド・ユヌス氏はそう思っている。実際、彼はそれが正しいと知っているのだ。

30年前、彼はバングラデシュの貧しい職人のグループに、借金の支払いのためにその額を貸した。それが口火となって金融サービス革命が始まった。それはマイクロクレジット(microcredit)と呼ばれ、彼に2006年のノーベル平和賞をもたらした。

マイクロクレジットは小額のお金——たいてい50ドルから100ドル——を、返済を保証するお金も財産もないために従来の銀行ローンを受けられない貧しい企業家たちに貸すことである。それによって、彼らは貧困脱出の助けになるプロジェクトの資金をまかなうことができる。

ユヌス氏がこのアイデアを最初に思いついた時には、多くの人たちが懐疑的だった。しかし今日、世界銀行の推定では、世界中で7,000のマイクロクレジット機関が1,600万人に金を貸している——そして国連は、2005年をマイクロクレジット国際年と宣言した。ユヌス氏がグラミン銀行(ベンガル語で“村の銀行”の意味)を創立して以来、世界の最も貧しい人々の一部の生活が一変した。

それは、すべてユヌス氏の田舎の貧しい人々への現実的ななかかわり合いの中から生まれたものだ。「わたしはほんの少しのお金を必要とする人たちのリストを作った。そして、リストが完成した時には42人の名前がそこにあった」と彼は言う。「彼らが必要とするお金の総額は、27ドルだった。わたしはショックを受けた」。

職人たちは、毎週金貸しから借りたお金でカゴやその他の工芸品を作る材料を買った。彼らの利益の大部分は、負債と利子の返済に消えた。ユヌス氏はこう続ける。「わたしは人々が小額のお金のためにいかに苦しんでいるかを見た。そして金貸しは彼らに対する有利な立場を利用して、すべての利益がふところに入り、借り手には何も残らないように搾取していたのだ」。

貧民の中でも最も貧しい人たちに焦点を合わせるという意味で、グラミン銀行の真の顧客は女性たちだった。ユヌス氏は、ノーベル賞委

員会の言葉を借りれば「経済成長と市民のための民主政治は、人類の半数を占める女性が男性と同じ基盤に立って参加しない限り、その機能をじゅうぶんに発揮することはできない」ということを理解していた。

しかし、伝統的にイスラム教の国であるバングラデシュでは、女性を参加させることは初めのうちは容易ではなかった。「これを始めた時に、わたしは借り手の半数が女性たちであることを確かめたかった」とユヌス氏は言う。「それは容易ではなかった。なぜなら女性たちは、自身が金を借りるべきだとは考えなかったからだ。わたしはかなりの説得をしなければならなかった」。

ガルバダン・ネサはそのひとりだった。5年前、彼女は卵を売るための鶏を買うのに90ドルを借りた。「ついこのあいだまで、わたしは家族を養うお金を得るため物乞い^{ものごい}いまでするような状態でした」と、彼女は説明した。「今ではわたしは自分の家を持ち、子供たちを食べさせ、彼らを学校に行かせるのにじゅうぶんなお金を持っています」。

現在、グラミン銀行の顧客の96%は女性だ。そして、世界中のマイクロクレジット機関で女性たちが上得意だということがわかった。男性に比べて、彼女たちは借金の返済がより確実で、収入を家族のために使う割合が高く、そのため恩恵を広げている。そしてまた、女性たちが財政的な管理力と責任を持てば、もっと社会に参加することができるのである。

そして、これこそがマイクロクレジットの要点のすべてである。利益のみを追求する普通の銀行と全く対照的に、マイクロクレジット機関は顧客が社会的および経済的に恩恵を受けることを目的としている。たとえば、ハイチのフォンコーゼ(Fonkoze)銀行は、教育を受けなかった女性客たちを主体に基礎の識字や計算のクラスを提供している。ウガンダでは国際地域支援財団(FINCA)が生命保険や外来患者用の医療サービスを提供している。そして、グラミン銀行ではローン貸与に組み込まれた貯蓄を推奨している。しかし、ユヌス氏がすぐに指摘したように、「これは慈善事業ではない。これはビジネスだ。人々を貧困から脱出する手助けをするという、社会的な目標を持ったビジネスなのだ」。



「環境保護は必ずや将来への投資となります。そしてわれわれには、世界中の若者たちがそれにかかわり合い、その持続可能性に尽力することを支援する用意があります」と、バイエル社の取締役、ヴォルフガング・プリシュケ博士は述べた。

彼は2006年バイエル青少年環境使節(BYEE)会議の開会式で演壇に立った。同社は1998年にタイでこの青少年環境使節プログラムを創始し、それが今日、UNEPとバイエル社の協力関係の柱となっている。以来、それはアジア、アフリカ、東ヨーロッパおよびラテンアメリカにおいて、経済的に急成長を遂げる16の国々から若者たちを擁するまでに成長した。

バイエル青少年環境使節たちは、母国の選出委員会に活動報告やエッセイを提出する。そして徹底した面接を通して吟味され、選出されると、1週間の実地研修、講演およびネットワークづくりの機会に参加するため、ドイツへと出発する。今年には1,200名の応募者から48人の使節が選ばれた——そこまでたどり着くには、候補者たちが十分な英語力と同様に強いリーダーシップと環境へのかかわり方を示さねばならない。

「われわれは、世界中から集まった若い環境運動家と科学者のあいだに話し合いの場を設けたいと思います」とプリシュケ博士は付け加えた。「そして、われわれが望むのは、使節たちが現存の技術、設備、実践についてもっと学ぶことです。この週末までに、環境保護において産業界、政府、そして個人がお互いに強化しあいながら担うことのできる役割について理解を深めた上で、帰途につかれることを希望します」。

「われわれは、世界中から集まった若い環境運動家と科学者のあいだに話し合いの場を設けたいと思います」とプリシュケ博士は付け加えた。「そして、われわれが望むのは、使節たちが現存の技術、設備、実践についてもっと学ぶことです。この週末までに、環境保護において産業界、政府、そして個人がお互いに強化しあいながら担うことのできる役割について理解を深めた上で、帰途につかれることを希望します」。



**Bayer Young
Environmental
Envoy**

In Partnership with the United Nations
Environment Programme

バイエル青少年環境使節
国連環境計画(UNEP)との
パートナーシップ

Photos: Bayer



将来の環境運動の リーダーたち

Future environmental leaders



「1万5千本の木を植えるんだって? 大したことはない。熟練したら1日800~1,000本は植えられるからね」。

ポテトフライと2本のスプーンを皿からつかみ出して、ガブリエル・ロチャは説明した。「つまり二人一組になって作業するんだ。ひとりはシャベルで穴を掘る」(スプーンをサラダに突っ込む)。「そして、もうひとりは種苗を植える」(ポテトをしっかりと植えるしぐさ)。「全部で7秒くらいかかるかな」。

それはバイエル青少年環境使節会議の3日目のことで、わたしはコロンビアの森林再生の速修講座を受けていた。プログラムには実地研修や環境専門家による講義、そしてネットワークづくりの機会などがふくまれている。その場で即座に教えられる知識は、思わぬおまけのようなものだ。

各国の言語が飛び交う中で、もうひとりのコロンビア人、ルイス・カルロス・キャンピス・メルカドが仲間同士の教育を賞賛していた。「農民にとっては、政府の技術者から自分たちのやり方を変えるように言われても抵抗がある。しかし、彼らは互いを信頼し、自身で考えた革



新案の導入に自信がある。だからぼくたちは土地の農民たちとともに働きながら、彼らがぼくたちから学ぶのと同じくらい彼らからも学ぶんだ」。

こういったことこそ、この会議——ドイツのレバークーゼンにあるバイエル本社で毎年11月に開催される——そのものなのだ。この48人の使節たち——UNEPの広報ディレクターであるエリック・ファルト氏の描写によれば“明日の環境リーダーたち”——には科学者、法科学生、エンジニア、医学生、そして森林管理者などがふくまれている。

彼らにとって、この旅行はドイツにおける最新の環境保護を直接経験する機会である。それはまた、世界中の仲間たちとアイデアや名刺、そしてプロジェクトの提案などを交換する機会でもある。バイエル社の企業理念およびメディア対策部長であるマイケル・シェイド氏は、開会にあたってすべての使節たち、特にベトナムとマレーシア——初めてプログラムに参加する国——からの使節たちに歓迎の辞を述べた。「われわれは、あなたがたがわくわくするような1週間を過ごすよう希望します」と彼は語りかけた。「そして、この場にあふれる専門知識を存分に活用することです。あなたがたは専門家です。みなお互いから学び合いましょう」。

過密なペースで進む。第1日目からいくつものスピーチ、ワークショップ、実地研修、そしてプ



TUNZAの青年編集者、クレア・ヘイスティングスが、インドネシア大学から来たバイエル青少年環境使節のフィッカ・ファウジア(左写真)にインタビューした。

「わたしは12歳の時に、ジャカルタの北にあるプラムカ島でカメの再生計画を手伝いました。カメやその卵を食べる地域の漁師からタイマイ(=海ガメの一種の鼈甲亀)を守るため、卵を集めてふ化させ、幼いカメを海に放てるようになるまで育てました。

…今、わたしはNGO団体で働き、法科学学生のあいだで環境意識を高めようとしています。インドネシアには多くの問題があります。なぜなら環境法、特に採掘や伐採の許認可を執行する能力が不足しているのです。こうした法律を知ることは確かに役に立ちます。それでも法科学学生たちが環境に目を向けられないのなら、わたしたちは環境を彼らの目の前に持ってきます。

…レバークーゼンでのBYEE週間では、本当に考えさせられました——たとえばドイツの環境情報条例にあるように、強い実施規則がどのような違いをもたらすか教えられました。わたしはまた、ゴミや廃棄物管理にとっても感心しました。インドネシアでは、私たちの廃棄物管理条例はまだ草案の段階です。そして、わたしたちは法律専攻の学生として、それを前進させようと努力しています。

…環境関連の仕事において、女性であることは有利な点も不利な点もあります。インドネシアでは、女子のほうが地域社会や子供たちと一緒に仕事しやすいのです。男子の場合は、政府の役人や環境保護に直接かわる人たちと、よりつながりを持つことができます。それは、女子が役人たちと、そして男子が地域社会と共同作業できないということではなく、性別によって偏った役割といったものがあるからです。

…それでも、わたしたちはみな一緒に働かねばなりません。もし環境保護がそのゴールであるならば、ひとりでボールをゴールに向かって蹴るのではなく、他の人にボールをパスして、彼らにもあなたのために、またみんなのために、ゴールを決めてもらうのです。



レゼンテーションなどがある。時差ぼけにもかかわらず、使節たちは講演者に特許法、資源の公平な分配、そして持続可能な開発などについての質問を次々に浴びせかける。

夕食時には、会話が午後の討論にまでさかのぼってしまう。「皆が持続可能な開発について話すのはとても良いことです」と、ムンバイから来た地学者のマニシャ・ガネシャンはコメントした。「でも、持続可能なやり方を実践するのはずっと難しい。わたしたちには資源はあるかもしれないけれど、必要なインフラをつくり上げるだけのお金がありません」。

マニシャは、温泉の地熱エネルギーを電力に変える研究をしている。彼女がバイエルで見た科学の実習には魅力があった。「わたしは終日、研究室内にこもってたくはありません」と彼女は言う。「それより手を汚して実践していきたいのです」。

ブラジル人のペドロ・シャフの目には、バイエルクロップサイエンス社が魅力的に映った。新しい肥料や殺虫剤を開発する時には、バイエルではひとつひとつの製品を土壌や地下水汚染の観点からテストする。ペドロによれば、



このような手法や技術は、近隣のゴルフコースで使用される化学物質で地下水が汚染の危機にさらされている彼の地域社会では、特に役に立つだろうとのことだった。

午前中、パワーポイントによる発表や理論の講義を受けたあと、環境保護の現場に立ち会う機会に恵まれた。AVEA社の都市廃棄物管理センターにおけるリサイクルプログラムは印象的だった。しかし、わたしたちが箱一杯のラジオが投げ込まれたのを目の当たりにしたのを見たケニア出身の使節、マーガレット・コリーはコメントした。「もしこれらをケニア人がもらったら、修理するか、他のものを修理する部品として利用するのに!」



お別れの夕食会が始まったが、活気がおさまる気配はない。サルサの音楽が流れ、色とりどりの民族衣装が部屋一杯に渦巻いた。電子メールアドレスが交換され、その週のあいだに生まれたプロジェクトの詳細の詰めが行なわれた。環境問題は大きく立ちほだかっているが、使節たちは努力と教育で困難を乗り越えることができると確信しているようだ。

そもそも、たった2本のスプーンですべてが始まることもあるのだから……。

クレア・ヘイスティングス

夢を築く Building dreams

町なかや都市は世界の土地のたった2%しか占めていないが、いまや世界の人口の半分が居住しており、全資源の75%以上を消費している。2030年までに、都会の人口はさらに20億人増えるだろう。だからこそ、われわれの現代および未来にとって、持続可能な都市の構想が不可欠なのだ。

スラムの希望 Slum hope

世界中で10億の人たちがスラムに住んでいる——それは人口の6人に1人の割合だ。スラム街というと、うす汚さ、貧困、そして絶望のイメージが浮かんでくる。しかし、時にはそこは尊厳、革新、そして希望の場となる。

たいていのスラムの住民たちは、見放されがちな田舎から、仕事やより良い生活を求めて町と都市に群れを成して集まって来る。危険で急な斜面や洪水時に冠水する平地、運河や川岸、汚染源となる工場の風下など、開発業者が避けるような場所に小屋がけした貧民街を急ごしらえる。急斜面に据えられた多くが地すべりにあいやすく、平原上の多くは洪水に見舞われやすい。

人々は、手に入るものは何でも使って掘り立て小屋を作る。泥、プラスチックシート、ボール紙——レンガやコンクリートブロックはまれだ。

さらに悪いことに、清潔な水やいかなる形の衛生設備も極めてまれで——命取りとなるさまざまな水系感染性疾患を引き起こしている。

スラム街は環境および人間の災厄である。そして最も苦しむのは、ほとんどの時間を家で過ごす者——女性と子供たちである。

それでも、世界中でスラムの居住者たちは、もし半分でも機会を与えられたら、自分たちの家庭や行く末を見違えるほど向上させられることを示した。そのような希望をもたらずにインドの土木技師ヒマンシュ・パリクーによって創設された「スラム・ネットワークング・プログラム」がある。

スラム・ネットワークングは、スラム社会が基本的なサービスを受けることを助け、そして——その名前からわかるように——彼らを他の居住区と結びつける。下水や給水ラインは水圧を平均化するため環状の循環システム方式で敷設され、道路はまわりの建物より低く作られ、雨水がよどんだ水たまりを作って蚊が発生し病気を広めないようになっている。

地元住民の委員会が設計者や技師にアドバイスすることで、住民た

建設的な理想 Constructive ideal

バイエル青少年環境使節のアルフレド・ゲルサバ・ジュニアは、彼の母国フィリピンで低所得者の住宅供給に革命を起こす可能性のある革新的な技術を開発した。土木工学の学生である彼の懸念は、農業

廃棄物の蓄積と、貧しい村人たちのための入手可能で耐久性のある家が不足していることだった。彼の解決法は？ それが「もみ殻セメント結合ブロック」である。

彼は米のもみ殻——彼の国の農業廃棄物の大部分を占める——を建築用セメントブロックの原料である砂の代わりに使う。この方法では製造費が安く抑えられ、火やカビにも強い。この技術を開発し、

ブロンクスに喝采を Cheering Bronx

有毒なご近所を散歩したい人など、いるでしょうか？」とマジョーラ・カーターは問いかける。彼女はニューヨークの南ブロンクスにずっと住んでいる。そこはアメリカ合衆国で最も貧しい都市コミュニティのひとつで、ニューヨーク市の商業ゴミの40%を扱い、15のゴミ管理センター、4基の発電所、そして汚泥処理施設をかかえている。その住民たちは長らく、ぜんそくや、その他の汚染が引き起こす病気の発生率の高さに——そしてまた、市民の関心の低さに苦しんできた。

コミュニティの動員と組織化の才のあったカーターは、ニューヨーク市のゴミをさらに多くこへ送り込もうとする計画に怒り、2001年に「持続

可能な南ブロンクス(SSB)」を創立した。この組織は、創造的な計画で経済的、環境的な再生をもたらすことをねらいとしている。

「ゴミ施設や発電所ばかり作るのではなく、低所得層のコミュニティも、他のだれもが持つような公園や緑道を手に入れるべきです」と彼女は言う。

大きな突破口が開かれたのは、彼女が提出した南ブロンクスの水際に緑道を建設するという提案が認められて、じゅうぶん利用されていない土地が待望の緑の空間に変わった時だ。それは環境と同様に、人々の健康も改善することになる。戸外に安全な空間があれば、人々はもっと運動をするようになる。

彼女の団体はまた、屋上緑化を推進している。土と植物におおわれた平らな屋上は美しいだけでなく、環境の役にも立つ。つまり建物の熱の遮断性を増し、エネルギー使用を低減し、その上このコンクリート・ジャングルの中で野生生物にすみかを与えることで、生物多様性を促進する。

ちにも権限を与え、地元の知識を活用する。コミュニティホールが住民参加の核として、特別に建設された。「緑のスペースも改良計画に不可欠だ」と、パリケーは言う。「そして住民の手で植えた樹のほうが、市の役人が植えたものより生存率が高い」。

こうして181の地域社会のネットワークを作ることで、インドール市(中央インドのマディヤ・プラデーシュ州)は、360キロの新しい道路、300キロの新しい下水道、240キロの水道管、120のコミュニティホール、そして12万本を超える樹木を手に入れた。世界銀行の調査では、家族の収入が倍になり、命にかかわる病気が90%減り、そして家族が自分たちの家を改良するために支出する額は10倍に増加した。

「貧しい地域に質の高いインフラを作り、そこから外へ向けて働きかけることで、実は市全体を改善することができる」とパリケーは締めくくった。「寄生している状態にとどまるのではなく、スラム街は、その外に住む人たちのためになることができる」。



AC Sales/UNEP/Topham

特許を取るかわら、彼は三つの先住民コミュニティの村人に、レンガを作る方法を教え始めた。

これまで、このブロックを使って20軒の家が造られ、100人にしっかりした住居を提供している。アルフレドの言葉を借りれば、「恵まれない境遇にある人たちに与えるお金は持っていないが、ほくにはアイデア、技術、そして教育がある!」

それはまた、雨水を吸収して排水を減らし、洪水の危険性を低くする。そして、高さ40センチの植物におおわれたわずか1.5平方メートルの緑の屋根は、5メートルの枝幅を持つ樹木とほぼ同じ量の酸素を作り出す。

カーターの成功の鍵は、環境面と経済面の持続可能性をからみ合わせた点にある。南ブロンクスの人々は、アルファルファを好んで食べる環境意識の高い人のイメージに必ずしも合うというわけではないが、しかし——彼女がすかさず指摘したように——大部分が環境に配慮したライフスタイルで生活している。彼らは車を所有せず、自転車に乗り、リサイクルを心がけている。そして、彼らの消費は持続可能なレベルにあるのだ。

彼女は語る。「わたしは自分たちのコミュニティにも夢を見る許可をあげたいのです。健康的な空気を、健全な仕事を、健康な子供たちを、そして安全な通りを計画する夢を」。



公平な性と環境

野生の驚異 WILD THINGS



Terry Embury/UNEP/Topham

ライオン

オスのライオンは、人目を引くたてがみ——より重々しいほど雄々しさがきわだつ——で強い印象を与えるが、家族を食べさせるという骨の折れる仕事をするのはメスである。群れを作って協力して狩りをし、メスたちは獲物に忍び寄り、急襲して倒す。それから彼女らは群れの残りを呼んで獲物にとどめを刺すが、成年のオスたちが食事をするあいだは一步退いて待たねばならず、オスたちが腹いっぱいになってから初めて食べにかかる。オスの仕事は群れを警護することで、彼らは縄張りを巡回し、自分たちの臭跡を吹きつけて侵入者たちから守る。

カマキリ

カマキリは旺盛な食欲を持ち、チョウなどの他の昆虫、そして小さな動物でさえ食べる。しかし時々、メスは交尾しながら相手のオスの頭を食いちぎる。これは繁殖のための生物行動であるかもしれない。なぜならオスは死に際(む)に、より多くの精液



MR Padmaraju/UNEP/Topham

を出すからだ。しかし、また人工的な条件によって起こってしまう可能性もある——研究室の中のような場所では、この昆虫は慣れない環境に混乱してしまうのかもしれない。ある研究では、つがいだけが暗闇の中に残された場合、共食いは起こらず、ただ慣習的な求愛ダンスを行なった。

タツノオトシゴ

タツノオトシゴは、オスが“妊娠”し出産する唯一の動物である。つがいになって求愛ダンスが数時間も続いたあと、メスは相手の体の育児嚢(うぶ)という袋の中に産卵する。オスは卵を受精させ、その受精卵を袋の中で2~3週間のあいだ保ち、そこに酸素と栄養物を与え、塩分濃度を調節して海水中での生活に備えさせる。妊娠期間が終わると、彼は小さな子孫である稚魚(ちまご)を産出し、それらは生を受けるやいなや独立する。



Chris Bradford/UNEP/Topham

世界の人口 World population

男性
32億8千6百万人
50.34%

女性
32億4千2百万人
49.66%

しかし、全世界を通じて女性はより長生きする傾向にあり…

| 平均寿命 | 男性 | 女性 |
|---------------------|------|------|
| 世界 | 63.9 | 68.4 |
| 北アメリカ | 75.3 | 80.6 |
| ヨーロッパ | 69.9 | 78.3 |
| オセアニア | 72.7 | 77.0 |
| ラテンアメリカ & カリブ海地域 | 69.3 | 75.5 |
| アジア | 66.4 | 70.4 |
| アラブ諸国 | 66.1 | 69.4 |
| アフリカ | 48.8 | 50.2 |

しかしながら、この総合的な性別バランスは、環境、経済、あるいは健康についてのわれわれの意思決定に反映されていない。過去60年のあいだに女性の議会における議員（MPs）数は世界中で4倍に増えたが、まだ女性議員は5人に1人の割合でしかない。

| 女性議員の割合% | |
|----------------|------|
| 先進地域 | 21.1 |
| 途上地域 | 15.3 |
| ラテンアメリカ&カリブ海地域 | 20.4 |
| 東アジア | 19.5 |
| サハラ砂漠以南のアフリカ | 16.2 |
| 東南アジア | 15.8 |
| 南アジア | 12.8 |
| 西アジア | 7.6 |
| 北アフリカ | 7.0 |
| オセアニア | 3.2 |

働く女性たち

インドネシアの女性農民の一日の生活



2000 就寝

1900-1930 子供たちを寝かせ、休息

1630-1900 歩いて川へ、入浴、洗濯、歩いて帰宅、お祈り、料理、家族を食べさせる、後かたづけ

1600-1630 料理用の薪を切り、家へ持ち帰る

1400-1600 子供とともに歩いて畑へ戻り、さらに働く

1130-1400 歩いて帰宅、学校から戻った子供たちを迎える、お祈り、料理、家族を食べさせる、後かたづけ、休息

プロフェッショナル The professionals

私たちがすることは、すべて環境への影響をとまなう。そして多くの人たちは、女性は男性に比べて周囲の世界により大きな関心を持っていると考えている。それで、ある人たちの主張によれば、もし自然の性のバランスがビジネス、産業、そして専門職に反映され、女性たちもより報われていれば、環境問題はもっと配慮されていたのではないかという。

農業以外の分野で働く全人口中の女性の割合は、世界中で上昇しつつある。しかし、地域によってまだかなりのむらがある……

また、労働者の中の女性の割合は、国によってもっと差がある……

産業とサービス業界の女性の割合 %

| | |
|----------------|------|
| 先進地域 | 46.4 |
| ラテンアメリカ&カリブ海地域 | 43.2 |
| 東アジア | 41.2 |
| 東南アジア | 38.8 |
| オセアニア | 37.3 |
| サハラ砂漠以南のアフリカ | 35.0 |
| 北アフリカ | 20.3 |
| 西アジア | 20.1 |
| 南アジア | 17.2 |

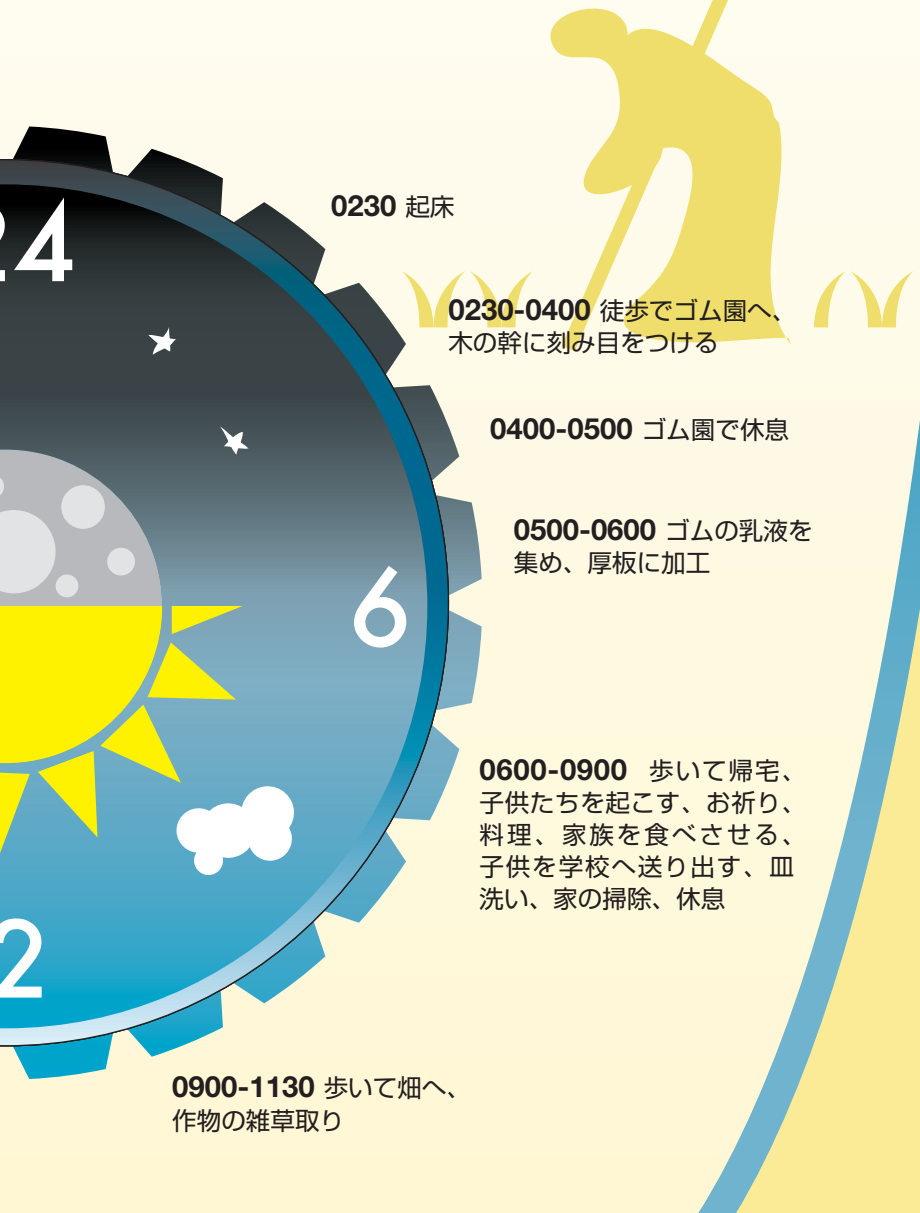
専門職/技術職の女性の割合 %

| | |
|---------|----|
| リトアニア | 70 |
| フィリピン | 62 |
| ナミビア | 55 |
| カナダ | 54 |
| 日本 | 46 |
| メキシコ | 40 |
| サウジアラビア | 31 |
| パキスタン | 26 |
| イエメン | 15 |

WORKING WOMEN

Day in the life

of an Indonesian woman farmer



0230 起床

0230-0400 徒歩でゴム園へ、木の幹に刻み目をつける

0400-0500 ゴム園で休息

0500-0600 ゴムの乳液を集め、厚板に加工

0600-0900 歩いて帰宅、子供たちを起こす、お祈り、料理、家族を食べさせる、子供を学校へ送り出す、皿洗い、家の掃除、休息

0900-1130 歩いて畑へ、作物の雑草取り

今日ですら、女性の大部分は男性に比べて教育を受ける機会が少なく、したがって当然読み書きできる女性は男性より少なくなる。状況は変わりつつあるものの、ほとんどの地域で中等学校への進学に至ってはまだまだほど遠い現状にある。

| | 識字率 % | | 中等学校進学率 % | |
|----------------|-------|----|-----------|----|
| | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 世界 | 87 | 77 | 68 | 64 |
| ヨーロッパ&中央アジア | 99 | 96 | 95 | 90 |
| 東アジア&太平洋地域 | 95 | 88 | 69 | 68 |
| ラテンアメリカ&カリブ海地域 | 91 | 89 | 84 | 90 |
| 中近東&北アフリカ | 77 | 57 | 71 | 63 |
| 東&南アフリカ | 70 | 56 | 32 | 28 |
| 南アジア | 71 | 46 | 54 | 44 |
| 西&中央アフリカ | 69 | 48 | 39 | 29 |
| サハラ砂漠以南のアフリカ | 70 | 53 | 33 | 26 |

特定の地域、中でもアフリカでは一般的に、HIV感染が男性より女性のあいだでより流行している。そのため、経済的な活動をする上で、また家族の面倒を見る上で、彼女たちの能力が損なわれている——そして環境についても同様に……

| (調査に選ばれた国々) | 男性 % | 女性 % |
|-------------|------|------|
| ジンバブエ | 15.6 | 25.0 |
| カメルーン | 4.1 | 6.8 |
| ルワンダ | 2.7 | 3.4 |
| ガーナ | 1.6 | 3.0 |
| バブアニューギニア | 1.4 | 2.2 |
| ロシア連邦 | 1.7 | 0.5 |
| インド | 1.3 | 0.5 |
| ブラジル | 0.7 | 0.4 |
| スイス | 0.6 | 0.3 |
| コロンビア | 0.9 | 0.3 |
| レバノン | 0.2 | 0.1 |

しかし、ビジネス、産業、そして専門職における女性の所得能力は、いまだ男性に及ばない——同じ仕事をしていてさえも……

男性の所得に比較した女性の所得 %

| | |
|--------|----|
| ケニア | 90 |
| スウェーデン | 83 |
| 中国 | 67 |
| トルコ | 61 |
| ベルギー | 50 |
| ポリビア | 46 |
| ナイジェリア | 43 |
| マレーシア | 40 |

そして、女性がしている膨大な仕事——子育てから掃除・洗濯や料理に至るまでの——は、経済的に利益を生み出すものと認められていない……

認められていない女性の仕事 %

| | | |
|----|---------|----|
| 都市 | コロンビア | 76 |
| | ネパール | 75 |
| | ベネズエラ | 70 |
| | インドネシア | 65 |
| 農村 | フィリピン | 71 |
| | バングラデシュ | 65 |
| | グアテマラ | 63 |
| | ケニア | 58 |

しかし、これらの活動は環境に直接結びついている——ストーブの燃料のため切り出す薪から、食糧の栽培や購入、あるいは洗いものや飲むための水、われわれが子供たちに家庭で教えることに至るまで。女性を評価し、環境によりやり方を広めるよう彼女たちを励ますことで、きわめて重大な差異が生じる。

出典：世界人口基金 (UNFPA) 世界人口白書2006；国連統計部 (UNSD) ミレニアム開発目標指標；国連食糧農業機関 (FAO) 概況報告書—女性、農業及び食糧保障；世界資源研究所 (WRI) World Resources Report 2005；国連開発計画 (UNDP) 人間開発報告書2006；世界銀行開発データ；ユネスコ

世捨て人でなく No retreat



Xiaoxin He/ARC

Yen. Hiek Sopheap/ABE

José Nicolas/Nazca Pictures

宗 教生活に入ることは、世の中から身を引くことのように思われることが多い。しかし、多くの尼僧や僧たちは、ますます地球のための闘いに従事するようになっている。

2006年7月、新しい環境にやさしい道教の寺院が、中国の聖なる山、太白山に開かれた。陝西省にあるこの太白山Tiejia寺院は、環境教育の場としての役割も持ち、文化大革命の折に尼僧や僧たちが失ったものに替わっている。

道教の教えによると、あらゆるものは二つの対極にある相互依存の自然のままの力あるいはエネルギーから成っている。すなわち、ひとつは水によって象徴される「陰」で、夜、暗闇、女性のエネルギーなどに相当する。もうひとつは火によって象徴される「陽」で、男性や昼に相当する。この両者が調和した時に、生命のエネルギーが誕生する。

このつり合いを尊重するがゆえに、道教徒には自然を利己的に利用することが禁じられ、それを敬い、それから学ぶことが申し付けられている。したがってこの新しい寺院——ARC (Alliance of Religions and Conservation 〈宗教保護連盟〉)と世界的な環境保護団体であるWWF (世界自然保護基金)の協力で建設された——は、この調和の原理を通じて世界の人々に環境教育をほどこす一助となることを目的としている。

ここは、世間から隔離されて祈りと勉強の暮らしを送るのはほど遠く、地球のために奉仕する多くの宗教団体のほんのひとつにすぎない。「ほとんどの修道会などは、社会の底辺にいる人たちのことを倫理に基づいて考察するために設立されています」と、環境に関心を寄せるアメリカのローマ・カソリック派の尼僧たちの組織ROW (Religious on Water 〈水に関する宗教家たち〉)のメンバーであるメリー・ビルダーバックは説明する。「わたしたちは今では、万物はすべて倫理的な考慮に値すると考えています」。

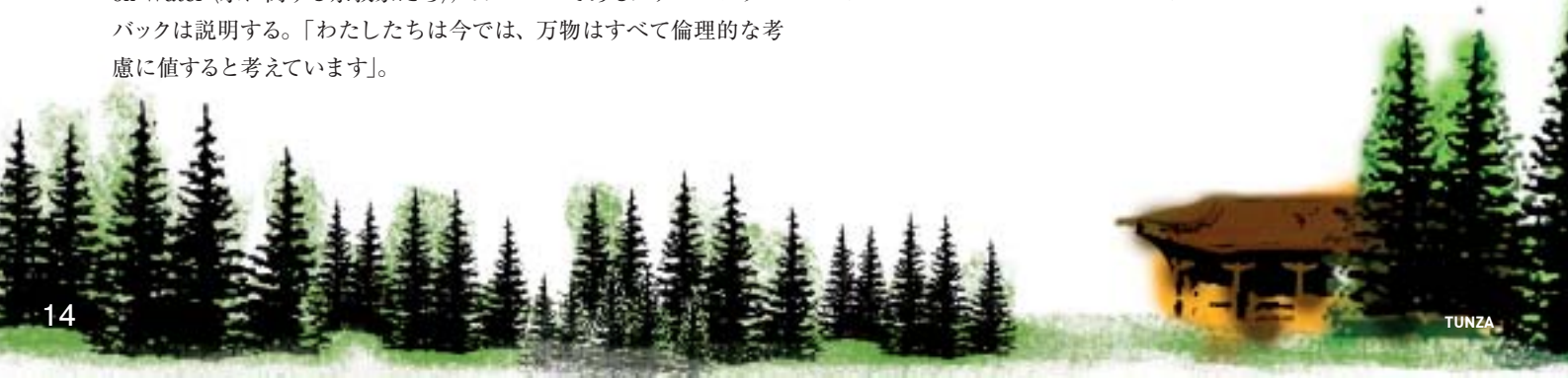
ROWは、1999年に六つの宗教団体が集まって潮の動きや沿岸地域の問題——さらに信仰が環境保全の運動に果たせる役割——などについて勉強した際に発足した。

「水の状態によって、わたしたちが生活し奉仕している人間と地球のコミュニティの将来が左右されます」と、慈善修道女会のキャロル・ジョンストンは述べる。環境保全団体のCOA (Clean Ocean Action 〈きれいな海の活動〉)と協同で、ROWはニュージャージー州の海岸を守り、その海水の汚染を防止するための立法措置を求めて何千人もの署名を集めた。

一方、世界の反対側では、カンボジア中のBuddhist Sangha (尼僧と僧の団体)のメンバーたちが最近、「Association of Buddhist for the Environment (環境のための仏教徒協会)」を設立し、森林、野生生物、湿地帯およびその他の天然資源の保全を推進している。そこでは水の管理システムを築き、堆肥の貯蔵所を設置し、木々や菜園を植えて育てている。尼僧や僧に対する国民の尊敬の念に勇気づけられ、彼らは環境をそこなうやり方を変えようとしている。

フランスにあるソラン地域社会のギリシャ正教会の尼僧たちもまた、額に汗して働いている。彼らは自分たちの10ヘクタールの森でぶどうや果樹園を耕し、それを持続可能なやり方で管理している。彼らは選ばれた木だけを伐採し、新しい若木を植えた結果、森は異なった育成段階の木々で満たされた。そしてコミュニティの燃料の需要の維持も可能になった。尼僧たちは有機栽培を行ない、木と太陽熱を使用して食糧とエネルギーの自給を推し進めている。

これらからわかるのは、信仰と生態学が、陰と陽の組み合わせのように調和を保つことが可能だということである。



すべてのことに配慮する Thinking about everything

生物学者、ジャーナリスト、そして作家でもあるバーバラ・キングソルヴァーは、卓越したストーリーテラーである。彼女の著作は活動的な登場人物やいきいきとした背景描写に満ちており、彼女自身、環境に深い関心を抱いている。二人の娘の母親でもあるキングソルヴァーは、大学の学生時代から環境正義や環境保全プロジェクトの

ために行動していた。最近では夫や子供たちと農場で暮らし、環境問題に関する地方の役所や国の政府への陳情と、多作な作家として著述活動の合間に有機野菜の栽培やチーズ作りをしている。

TUNZAは彼女を追いかけて、著作活動や行動主義、母性、そして地球の将来などについてその知恵を借りることにした。



Steven L Hopp

Q あなたは生物学の知識がありながら、どうして小説を書くようになったのですか？ たとえばジャーナリズムのような、事実に基づいた著作にこだわらないのですか？

A わたしは今までずっと物語が大好きでした。物語を読み、人に聞かせ、その意味を解き明かすのです。人々は情報を得るために新聞を読みます。しかし、英知のために文学はあります。生物学を学んだことは、世界を理解する助けになりました。小説を書くということは、わたしが理解したり信じたりしてきたことがらを抽出するひとつの方法であり、それらを読者の心にぴったりに収まるようなひとつの包装に仕上げるのです。

Q あなたの作品の中の主役たちの多くは、強い女性です。地球に気配りする上で、女性は独特なものを見方を持つと思いますか？

A 世界中の女性はそれぞれ異なります。小説の中の女性たちも、真実味を帯びるように描ければ、同様に多彩で風変わりです。わたしは女性たちの性格を弱く、強く、うぬぼれ屋に、ひねくれものに、ばかげたふうに、書いています。しかし、物語の中で努力が実るのは、読者自身に——現実の中で、理屈の上で、または未来において——自分の最大の長所を思い出させるような人物なのです。

Q 最近、あなたはどのような環境に関する積極行動にかかわっていますか？ あなたの現在とても心配なことは何ですか？

A わたしは州内で、地域社会で、そして家庭において、国際的、国家的レベルの環境への取り

組みにかかわっています。ある意味では、それはすべて同じことなのです。やっていることと言えば、わたしたちみんなが世界の限られた資源を使い過ぎ、かなりのゴミを出し過ぎ、他の人に後からつけがまわる負債を急速に増やしています。ですから、それは同じ戦略の一部として、わたしが国の指導層に自国の化石燃料の使用を緊急に減らすように話すと、わたしの5年生の子供に、スクールバスに間に合うように起きなさい、なぜなら親が子供たちを別々に車で送るのはむだなことだからと言いつけさせるのと、大差ないです。この点、わたしたちはみな一緒の立場です。

Q あなたの小説は、舞台となる土地にしっかりと根付いています。『ポイズンウッド・バイブル(The Poisonwood Bible)』ではコンゴ、『Prodigal Summer(=豊穣の夏)』ではアパラチア、『野菜畑のインディアン(The Bean Trees)』ではアリゾナといった具合です。あなたのひとつの地域への帰属意識は、あなたの積極行動にどう影響していますか？

A 人間は、他のあらゆる動物と同様に、住環境や食物連鎖が健全である限り健康でいられます。わたしたちはそれぞれ、食べ、飲み、呼吸し、ゴミを出し、処理を任せ、そして自分の家を建てるために他の生き物をよそへ追いやるような場所に根を下ろしています。こうした連鎖を理解することが、責任ある生活への一番最初のステップです。

Q 二人の娘の母であることが、あなたの環境への取り組みに変化を与えましたか？

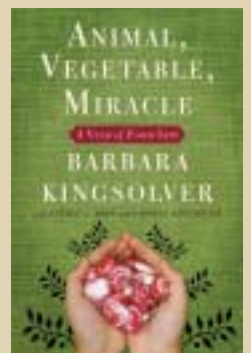
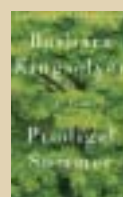
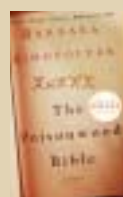
A 子供を持つまでは、人類の将来はちょうど怖い映画を見るように現実味に欠けていました。でも今は、泣き出してしまいます。この深刻に傷つけられた地球上でわたしの娘たちが育っていくのをながめているのですから、わたしは地球温暖化のような巨大な恐怖を見すえ、正面から向かい合わねばならないのです。

Q あなたの今度の本、『Animal, Vegetable, Miracle(=動物、植物、奇跡)』についてどう話してください。

A わたしたちがアメリカで燃やしている化石燃料のおよそ半分は、食物の流通、つまり食品の大量生産、そしてそれらを世界のすみずみまで、あるいはそこから運ぶために使われています。これをそう長く続けることはできないでしょう。わたしたちの家族は、家の近くを持っている庭や農園でとれたものでどの程度じゅうぶんに暮らしていけるか実験をしました。その結果が今度の本『Animal, Vegetable, Miracle』、つまり1年間の食生活なのです。

Q 若者たちは、どうすれば環境保全の面でも意義のある進展を見せることができると思いますか？

A 彼らが使用する電気、紙、食品、水、酸素といったすべてのものについて考えることです。それがどこから来るのか？ それを作るために何が損なわれているのか？ ひとたびわたしたちが、資源がいかに貴重で限られたものであるかを理解すれば、もっと持続可能な方法で生活することによって資源を尊重することでしょう。



性差に関する問題点： あなたはどのくらい知っていますか？

Gender issues: How much do you know?

1. 毎日1ドル以下で生活している12億人の中で、女性の占める割合は？
 - a. 50%
 - b. 60%
 - c. 70%
 - d. 80%
2. 室内で火を燃やしたり、煙の出るストーブを使うことで汚染された空気によって、毎年どのくらい多くの人が亡くなっているでしょう？
 - a. 120万人
 - b. 150万人
 - c. 190万人
 - d. 200万人
3. サハラ砂漠以南のアフリカで、家族全体の食糧生産における女性の責任の割合はどのくらいでしょうか？
 - a. 20-30%
 - b. 40-50%
 - c. 60-70%
 - d. 70-80%
4. 15歳から19歳までのあいだに子供を出産する少女は、毎年どのくらいいるでしょうか？
 - a. 1,000万人
 - b. 1,800万人
 - c. 1,400万人
 - d. 2,000万人
5. 議会で女性が占める議席の割合が最も高い国はどれでしょうか？
 - a. ノルウェー
 - b. カナダ
 - c. ベルギー
 - d. スウェーデン
6. 世界的に見て、どのくらい多くの少女たちが小学校に行っていないでしょうか？
 - a. 3人に1人
 - b. 4人に1人
 - c. 5人に1人
 - d. 6人に1人
7. 世界に9億人いる読み書きできない人々のうちで、女性の数はどのくらいでしょうか？
 - a. 3億人
 - b. 6億人
 - c. 4億人
 - d. 8億人
8. 南米で中等教育に進む少女の割合が一番高いのはどの国でしょうか？
 - a. チリ
 - b. ボリビア
 - c. スリナム
 - d. アルゼンチン

スーパーウーマン Super women

UNEP は、その年の「地球大賞(Champions of the Earth)」という形で、男女両方の突出した環境リーダーを表彰する。女性の受賞者には、メキシコの元環境大臣で、自国の貧しい小作農の地域で農業開発プログラムの調整役をつとめたフリーヤ・カラビラス・リジョ；北極地方への気候変動の影響とそこの伝統的な暮らし方についての運動を起こした活動家でイヌイット地域社会のリーダーであるシェイラ・ワット・クルーティエ；キューバの科学技術環境大臣でキューバ人の環境意識の向上に尽力した故ロサ・エレナ・シメオン・ネグリン博士；そしてイラン初の女性副大統領で、ペルシャ湾の海洋生物の保護を助け、テヘランにおける大気汚染と戦ったマスメ・エブテカールなどがいる。

女性環境開発機構(WEDO)——1990年に合衆国の元女性議員ベラ・アプザグと男女同権を訴える活動家でジャーナリストのミム・ケルバーによって設立され、国際会議および諸活動に女性を結束させる役割を果たす——もまたUNEPの地球大賞を受けている。たとえば1992年に、WEDOは80以上の国々から1,500人以上の女性を集め、国連環境開発会議(UNCED)において、公式な持続可能な開発の行動計画に女性の権利と性の平等を織り込む手助けをし——いっしょに活動すれば、女性は個々人での可能性を超えた成果を上げることができると証明したのである。

しかし、それでも個人の努力はきわめて大切であり、世界中で女性はそうした仕事に身を捧げているが、その多くが世に知られていないヒロインたちである。ここではほんの数名にすぎないが、努力を重ねているすばらしい女性たちを紹介する。

アイラ・ケトー

もしアイラ・ケトー博士の努力がなかったら、オーストラリアのクイーンズランドのおよそ300万ヘクタールの熱帯雨林は伐採されていたか、危機にさらされていたことだろう。

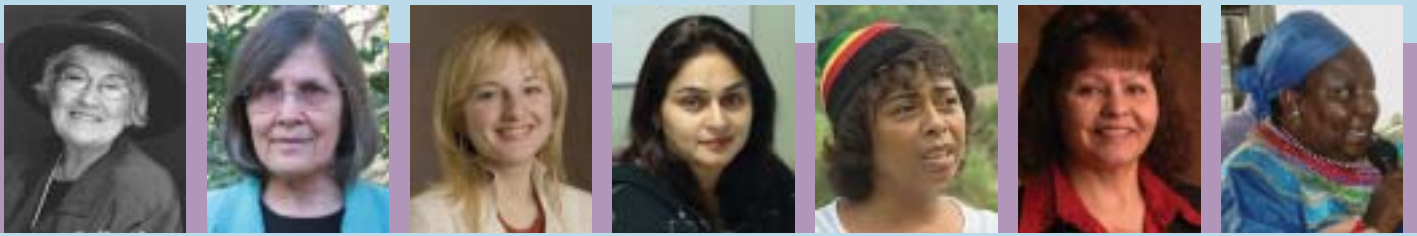
彼女の熱帯雨林に対する愛情は、そのひとつにほど近いサトウキビ農場で彼女が育ったことから生じた。彼女は環境保護に献身する研究科学者になり、1982年にクイーンズランド熱帯雨林保全協会の共同設立者となった。これは現在、オーストラリア熱帯雨林保全協会として知られ、彼女は今でもその会長である。

協会を通して、彼女はクイーンズランドのために3ヵ所の世界遺産登録を成し上げた。それには150万ヘクタールの熱帯湿地もふくまれる。1994年に、彼女は州の公有地にある熱帯雨林の伐採をすべて停止させた。そしてその5年後に、材木業界、環境保全運動、地方政府とのあいだで125万ヘクタールの広葉樹林を保護す

Becklectic/Flickr.com



答え：1c. 2b. 3d. 4c. 5d. 6c. 7b. 8c



From left to right: Bella Abzug (WEDO); Aila Keto (Keith Scott/Australian Rainforest Conservation Society); Olya Melen (The Goldman Environmental Foundation); Rahat Najam (WWF-Pakistan); Libia Grueso (David Lent/The Goldman Environmental Foundation); Julia Bonds (The Goldman Environmental Foundation); Lucy Mullenkei (MADRE)

るという歴史的な協定を結ぶ手助けをした。彼女の賞には、UNEPの「グローバル500賞」の栄誉もふくまれている。

オリヤ・メレン

26歳のウクライナの弁護士オリヤ・メレンは、環境のための闘いには情熱と勇気が大切だということを証明している。

2年前に彼女は「環境-人-法」(EPL)と呼ばれる組織で仕事をしてきた。その時ウクライナ政府は黒海とドナウ川のあいだに大きな船が通れる運河をつくる計画した。それはドナウの三角州地帯——ほぼ50万ヘクタールにわたっていくつかの湖沼が網状につながっている地帯——の中核を切り開くことだった。ラムサール条約で国際的に重要な湿地に指定され、ユネスコの世界遺産および生物圏保護区でもある。

メレンはその地域の保護指定を覆す政府の試みに異議を申し入れ、運河が環境に重要な危害をおよぼす可能性を主張した。判事はこのプロジェクトの環境への影響評価が不適当であることを認めた。

この勝利にもかかわらず、運河建設の第一段階が強行された。いまでは新しい政府の行政局が引き継いで、このプロジェクトを中断させている。しかし、デルタ地帯はまだその保護を保証されたわけではない。ヴィクトル・ユシチェンコ大統領は、自分としてはこの運河を完成させたいと言いつづけている。

ラハット・ナジャム

10年以上ものあいだ、ラハット・ナジャムはパキスタンの湿地帯を守るために活動してきた。それはその地方にとって特異な呼びかけであり、特に女性としてはまれだった。彼女は現在WWF(世界自然保護基金)パキスタン支局で働いている。

パキスタンの地域社会では、水を集めるのは女性の仕事だったので、彼女は湿地帯の重要性を女性たちに教えようと決心した。彼女は汚染物質濃度の指標となる水鳥についての研究を実行し、3ヵ所の湿地帯がラムサール条約に基づく国際的に重要な湿地に指定される手伝いをした。世界で5番目に大きく主要なマングローブ林でもあるインダスデルタ地帯、季節風にとまらぬ雨や潮汐で周期的な洪水に見舞われるが多くの鳥類の生息地となっているインドのカッチ湿地、そして砂丘と永久湖の複合した野生生物保護区であるデアクロII砂漠湿地群である。それらを合計すると、総面積は100万ヘクタールを超える。

リビア・グルエソ

コロンビアの太平洋沿岸の密林は、地上のどこよりも種類の多い両生類や鳥類のすみかである——そして350万人の貧しいアフリカ系コロンビア人にとって、産業開発、農業、内戦、鉱業、そして伐採の十字砲火にさらされており、毎年最高8万ヘクタールの熱帯雨林が破壊されている。

そこで民生委員のリビア・グルエソは、「黒人系コミュニティの進展(PCN)」を共同設立して、アフリカ系コロンビア人の権利と環境保護を自らが先頭に立って唱えた。

不安定な情勢のコロンビアにおいては、この種のリーダーシップをとるのは危険である。持続可能な開発を支持した他の何人かは暗殺

された。しかし、グルエソやその仲間たちは、アフリカ系コロンビア人のコミュニティがほぼ250万ヘクタール以上にわたる土地の権利を獲得するのを助けた。PCNはそれ以来、ヤシ油農園、伐採業、エビ養殖業など、地域のマングローブに害をおよぼす動きに異議を唱えることに成功した。それは伝統的な農業を推奨し、コミュニティの自給自足を助けている。

ジュリア・ボンズ

ジュリア・ボンズは、6歳の孫が西バージニアのコール・リバー・バレーの採鉱で汚染された小川から死んだ魚を手にいっぱい引き揚げのを見て、行動を起こす時だととらえた。彼女は現在コール・リバー山岳監視団を管理しており、合衆国のアパラチア山脈で石炭層をねらった爆破による荒廃と闘っている。

爆破で大気中に微粒子が満ちて呼吸器系の病気を引き起こし、ヒ素、水銀、鉛で飲料水が汚染される。吹き飛ばされた山頂からの瓦礫は1,600キロにわたる川と、12万ヘクタールを超える森をおおう。そして、土壌や草木が除かれるため洪水が増える。

いまやボンズは採掘現場付近の地域社会を代表して、採鉱会社が違反を犯さないかどうか監視し、採鉱に関連した危険を防ぐ運動に時間をつぎ込んでいる。しばしば脅迫を受けながらも、彼女は汚染を引き起こす鉱山での操業を中止させる手助けをしてきた。オリヤ・メレンやリビア・グルエソと同様、彼女はゴールドマン環境賞を受けた。

ルーシー・ムレンケイ

ケニアのジャーナリストであり、草の根運動のまとめ役でもあるルーシー・ムレンケイは、自分たちの環境に懸念をいだいている先住民族の代弁をしている。彼女はナイロビで「先住民情報ネットワーク(IIN)」を運営し、年に2回「遊牧ニュース(Nomadic News)」を発行してアフリカの狩猟採集民族、遊牧民、そしてその他の先住民族の関心事を取り上げている。このネットワーク組織は、人々が国際会議で情報交換したり立場を明確にする研修を計画したり、生物多様性の保全に関する研究会を取りまとめたりしている。

Clyde H. Smith/Still Pictures





www.unep.org/women_env

もし地球を守る運動をしている女性たちについて知りたいなら、UNEPの「女性と環境の名士録」を見れば十分です。2006年3月8日の国際婦人デーに発足した www.unep.org/women_env では、持続可能な開発のための闘いの最前線にいる女性たちがだれかを明らかにし——そして功績をたたえ——貴重なネットワークづくりの資料を提供します。現時点でこのサイトでは、スウェーデンの環境大使ヴィヴェカ・ポーンのような政策決定者からチャン・エン・ヘン博士——マレーシアでの海ガメ保護の草の根運動の先頭に立つ大学教授——のよ

うな科学者に至るまで、49カ国から199人の女性たちを載せています。またそこには、ヨルダンのバスマ・ピント・アリ王女殿下——多くの環境NPO(非政府組織)の創始者および統率者でもあり『タイム』誌で「地球のヒロイン」に選ばれた——や、1992年のリオ地球サミットで若者代表となったカナダの活動家セヴァン・カリス・スズキのような、若者を代表して意見を述べた女性もふくまれています。

UNEPは、これを十分包括的な人名録にしたいと願っており、新たな候補者は常に考慮され続けています。もしリストにない大切な人物を載せるべきだと思ったら、ウェブサイトのフォームを使って推薦してください。自己推薦も可能です！

自分たちの谷を緑に Greening their valley

バイエル青少年環境使節であるレニー・ツランガが、インドネシアの地域社会で農耕方式の改良を志した若者グループの成功談を報告する。

父が若かった頃、ニンジンが甘い味がしていました。しかし、何年も化学肥料を使った後は、そうした風味は失われてしまいました。それでわたしたちは、われわれの夢のニンジン、すなわち健康によい甘みのあるものを育てようと試みています」と説明してくれたのは、インドネシアの東ジャワにおける画期的な有機栽培グループの二人のメンバー、ウイナルトとスアヤトミです。

ウォノムルヨ村の大部分の人たちと同様に、21歳のスアヤトミは農作に化学肥料や殺虫剤を使用していました。しかし、彼女は子供たちの健康への危険と土壌への長期におよぶ影響を心配しました。GPSK (Gerakan Peduli Sekitar Kita)の環境保護運動に携わるボランティアがこの村で有機栽培の利点についてセミナーを催した時、スアヤトミと他の15人の農民たちは、これを試してみようと思えました。彼らは自分たちの仲間を「緑の谷の農民グループ(Taruna Tani Bukit Hijau)」と名づけました。

スアヤトミはそのグループでたった二人の女性のうちのひとりでしたが、彼女とグループの書記役である14歳のミスミアチは、重要な手本です。ウォノムルヨでは、大部分の女性は18歳の誕生日までに結婚し、夫と農作に携わるために学校を中退します。スアヤトミもミスミアチも未婚で、女性に変化の主体になれることを村で証明しています。彼女たちはグループ内での自分たちの役割が女性農民を勇気づけ、運動に参加するようになることを望んでいます。

有機肥料や殺虫剤を使うのは時間とお金のムダだと考える他の農民たちの嘲笑にもめげず、「緑の谷の農民グループ」は、まず実験的にニンジンの種をまきました。やがて年上の農民たち(通常、グループのメンバーの両親や親戚たち)が、若者の熱意と誠実さにほだされて彼らを支持し、土地や労力を提供しました。

最初のニンジンが収穫された時、だれもが祝いました。長い過程でしたが、結局有機栽培のニンジン普通のものよりたくさん売れました。東ジャワの山岳地帯の多い農地では、トラクターのような農機はまれです。農地は鋤やシャベル、力仕事で耕され、農民たちは垂直に近い坂をたえず上り下りしなくてはなりません。妻たちは夫たちといっしょになって働き、家族を養い、子供たちを学校にやるお金をかせぎます。

有機栽培のやり方を学ぶには、実地訓練が必要です。GPSKの運動では若い農民向けに、有機肥料の作り方や有機栽培システムの実施方法といったトピックについての講座を主宰しています。

「緑の谷の農民グループ」は、今でも最良の、そして最も健康に良い有機食材を育てる試みを続けており、キャベツやたまねぎを植える計画が進行中です。彼らは前途が長いことを承知していますが、大きな夢の達成をめざしているのです。



Renny Turangga

料理とは？

What's cooking?

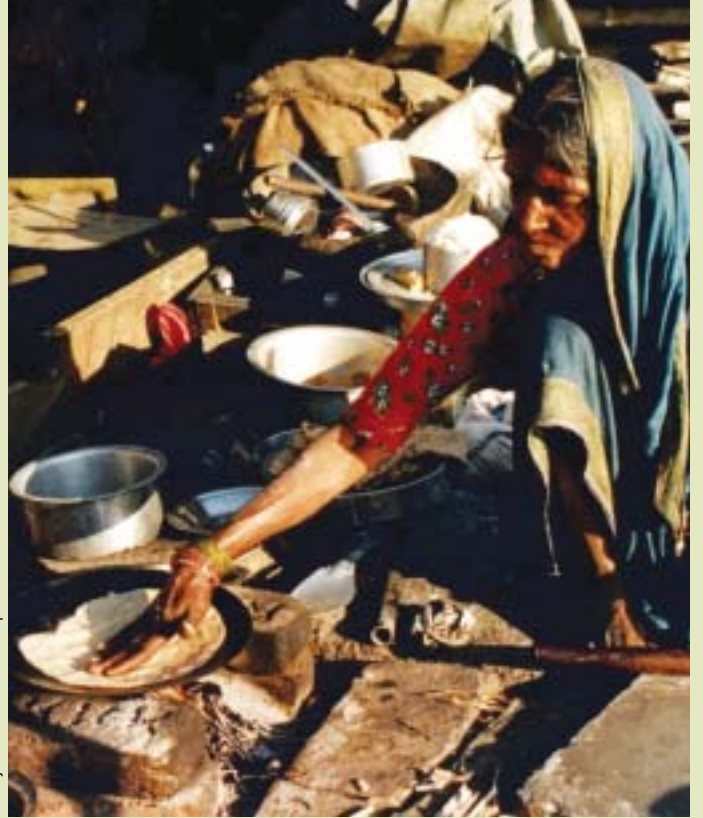
だれもが食物を食べるが、それを料理するのはほとんどいつも女性だ。そして世界中の貧しい人々にとって、それはたいへん時間がかかり骨の折れる、そして危険のともなう仕事である。

それは燃料——木材、草木、ふん、炭——を集めることから始まる。世界の25億の人々は、自分たちのエネルギー源としてそれらに頼っているのだ。その仕事はしばしば毎日多くの時間をかけて、背中が痛くなるほどの重い荷を運ぶ作業となる。主目的は料理で、途上国の家庭で燃やされるエネルギーの85%がそのために消える。また、しばしばそれは森林伐採をもたらす。

いったん点火されると、有毒ガス——生命にかかわる化学物質の混合物——が換気の不十分な建物の中に蓄積され、呼吸器系および目の病、がんの原因となる。その結果、150万人を超える人々——おもに女性と子供たち——が毎年死亡する。

再生可能エネルギーがひとつの解決法だ。太陽光線を集中させる太陽熱調理器が1767年に発明されたが、今になってやっと人々に真価を認められるようになった。少なくとも50万台が中国、南アジア、そしてアフリカで使用されている。日光と家庭用箱型調理器があれば、5人家族に食べさせるに十分な米が45分で調理できる。太陽電池板調理器はケニアでたった2ドルで製造されている。そして、インドでは箱型調理器は再利用されたボール紙から組み立てられる。何よりもいいのは、それらが有害ガスを出さないということだ。

牛のふん、下水、水、そして堆肥を混ぜることは、先進国の一部の人々にはひどいものと映るかもしれないが、途上国の世界では、それは手に入る資源を最大限に利用した産物だ。特注タンクにしっかりとふたをして時々かき混ぜてやると、料理用に使えるバイオガス(70%メタン



B Rejani Babu/UNEP/Topham

と30%二酸化炭素)を発生し、菜園や畑を肥やす効力のある堆肥が残る。ネパールの百万人の人々は、それを毎日使用している。バイオガスはクリーンな燃焼をし、このコンロは使っていない時には消しておくので、開放型の炉より安全である。

食物を保存することは、冷蔵設備のない暑い地域では悪夢のようなものだ。脱水乾燥がひとつの解決策で、果物や野菜を乾燥させると何ヶ月も保存でき、そのあと使用に際してはすみやかに水で戻される。インドの科学者は、この目的で地熱エネルギーを利用する研究をしている。自然にできた地殻の通気孔から洩れてくる熱と蒸気を農場にパイプで導き、太陽熱を増大させるのである。地域社会では自分たちの生産物を一年中食べてなお、余りを売ることができる。



北アメリカのTUNZA
青年アドバイザー、
エリッサ・スミスは、
どのようにして環境
保護に打ち込むよう
になったかを語る。

エリー湖は、わたしがカナダの五大湖地域ですごした子供の頃のように、一面に凍りつくことはもはやありません。ナイアガラの滝の近くにある父の果樹園と母の楓の林地も、昔のような収穫をもたらしません。木々は熱に悩まされ、新種の害虫が北に移動してきており、そのうえ成長する時期が変化しつつあります。それは、わたしにとって気候変動を直接経験した最初であり、以後、それと闘う仕事を続けるようになったのです。

わたしは高校時代に初めて環境問題に関与しました。その時わたしはできるだけ勉強

TUNZAに捧ぐ

し、可能な限り持続可能なやり方で生活しようと試みました。それで、環境キャンペーンに参加することで、自分の行動を国家レベルまで持っていったのです。わたしの特別な目標は、政策決定への若者の参加を増やして、カナダの気候変動対策活動を強化することでした。

やがてわたしはカナダの青年環境ネットワーク——300を超す青年環境組織を代表する——の総裁となり、シエラ青年連合の議長となりました。その頃からわたしは地球規模での考え方に興味を持つようになり——そして国連持続可能な開発委員会(CSD)をふくむ多くの国連会議でカナダの青年代表をつとめる機会に喜んで応じました。

わたしはカナダ最大の青年環境NPOであ

TUNZA DEDICATION

るシエラ青年連合の議長職を続け、地球青年気候変動対策運動のリーダーたちによって作り出されたコミュニティ・プロジェクト、<http://itsgettinghotinhere.org> のブログマスターとしてインターネット上で活動しています。わたしたちは毎日約2千人の読者を受けています。

TUNZA青年アドバイザーとして、わたしは世界中の同じ考えの人たちとつながりを持つ機会を享受しました。フルタイムのコミュニティ開発の勉強と直接行動とのつりあいを取るのは大変なはずですが。しかし次の世代のために、さらに適正で持続可能な未来をつくり出す助けができれば、苦勞のしがいには十分にあります。

世代の隔たりを埋める へだ Bridging the generation gap



Kate Chung/Toronto Raging Grannies



Marie Skoczylas/Thomas Merton Center



Marie Skoczylas/Thomas Merton Center

すばらしい環境活動家である彼女は、少しも動じずに産業界の汚染業者たちと渡り合っている。鉄の意志で政府に対する陳情活動を行ない、たえまない請願を続ける。メガホンと垂れ幕はいつでも彼女の手の届くところにある。金のスパンコールで“環境の女性 (Enviro Woman)”と書かれた緑色のケープを身にまとっている……。

実のところ、彼女は遠近両用の眼鏡をかけ、杖をついていそうに思われる。あなたのおばあさんと言ってもおかしくない。

おばあちゃんたち (Grannies)——そしてたいいてい年配の女性たち——は、いままでにないくらいに環境のために闘っている。圧力団体を率い、キャンペーンの先頭に立つ。それも、専門家と関心を持つアマチュアの両方の立場からだ。彼女たちは通常、子育てから解放され、環境運動のために献身する時間とエネルギーを持っている。若者のように因習を無視し、挑戦的な質問を浴びせかける。しかし、その年齢相応の賢明さのおかげで信用がある。

「彼女は、人が彼女を知的に理解するようになるのが言えるし、だれも彼女と衝突したいとは思わない」と、化学者兼おばあさんのウィルマ・スブラの友人は言う。スブラは「がんの細道 (Cancer Alley)」として知られる140キロにわたるミシシッピ川流域において汚染者たちと闘い、地域社会を助けている。そこでは川沿いの化学薬品や肥料の工場から出た毒素が土壌や飲み水に溶け込んでいる。スブラは地域の浄化キャンペーンを助けるため、化学分析に基づく事実の有無を提供し、人々が環境管理の申し入れをする草案づくりに協力している。

それで、55歳以上の女性たちの協会「Raging Grannies International (=怒れるおばあちゃんたちインターナショナル)」が生まれ、“すてきなかわいい老婦人たち”の考えを責任を持って行動に移すべく、“おばあちゃんグッズ”——花もよりの帽子、カーディガン、時代遅れのドレスにエプロン——を身につけ、退廃や社会の不正に抗議する風刺的な歌を歌うのだ。20年前カナダのビクトリアの女性グループに端を発し、それは北米じゅうの「やかましいおばあちゃんたち (Granny Gaggles)」のネットワークに発展した。さらにオーストラリア、ギリシャ、そして英国も同様である。

おばあちゃんたちは非暴力を擁護しているが、彼女たちの論点を相手にわからせるためにちょっとしたゲリラ作戦——重役室に侵入するためにフェンスをよじ登ったり、お目当ての政治家に群がったり——程度のことには反対しない。彼女たちの強みは、その数とまったくの厚かましさにある。帽子をかぶり、大声で、しかも時々調子はずれに森林伐採のことを歌う女性たちのグループを無視するのは難しい。

別の年配の女性たちは、環境問題の最大の難関と闘ってきた。シーア・コルボーンは“性ホルモンを阻害する”化学物質を特定し、同時にこれを防止するキャンペーンを実施するなどの先進的な努力をつくした。そして高齢の未亡人ナンシー・テイトは、夫がアスベストに起因するがんで亡くなったあと、数十年にわたるキャンペーンで世界規模の産業を屈服させた。

そして、これは単に先進国の世界に限ったことではない。いま60歳代のファティマ・ジブレルが1990年代の半ばに生まれ故郷の

ソマリアに帰った時、彼女はそこで砂漠化が進行しているのを知った。かまどでは家畜のえさに使われるはずの草木を燃料にして、樹齢500年近いアカシアの木から木炭がつくられていた。彼女は「ホーン・オブ・アフリカ救援・開発組織 (HARDO)」を創設して、木炭生産の環境への影響について人々に訴え、若者を彼女の使節として教育した。

ジブレルのキャンペーンは今でも進行中である。彼女は砂漠化した地域の女性や青年に小さな岩ダムを建設することによって、短い雨季のあいだに水の流出をせき止め、水を溜めることを教えている。

資源の管理と平和の関連を認識し、ジブレルは「ブーラン田園研究所 (BRI)」の創設に尽力した。2001年5月に研究所からの若者が「らくだキャラバン隊」を組織して放牧地帯を旅し、人々に家畜や資源の管理、健康管理、そして平和について教えた。「もしわたしたちが、人々にいっしょに働いてお互いの権利を尊重することを教えることができたら、暴力を平和的な協力に変えることができます」とジブレルは説明する。「女性はこの中で重要な役割を担っています。もしわたしたちが成功すれば、緊張、戦争、そして暴力は急速に減退するでしょう」。

おばあちゃん活動と若者の直接行動は、実際とても似ている。しかし、ちょっと想像してほしい。若者と年寄りが団結すれば、どれだけのことが達成できるかを……。



貧乏、でも豊か… Poor, but rich...

それは、人呼んでケララ現象という。一見したところ、インド南部の州は開発途上地域の典型のようにみえる——貧しく、人口過剰で、農業主体だ。しかし、その高い読み書きの能力、低い幼児死亡率、そして出生率の低下は先進国と肩を並べている。どうしてだろう？ そこには多くの相互に関連する要因があり、ケララの長く続いた母系継承の伝統がふくまれているが、特に三つの功績がその中心にあるように思われる。読み書きの能力、女性の健康、そして貧困問題への地域に即した解決方法がそれで、これらはともにケララ州が、ある人類学者が評価するところの“社会的発展の最高峰”の状態まで達するのを助けてきた。

ケララでのすばらしい読み書きの能力の成果は、徹底的なキャンペーンのおかげである。小学校のネットワークは拡大され、都市中心部の外でも通学可能になった。読み書きのできない大人を学校に連れてくるよりも、州のほうから読み書き教育を田舎の彼らのところに持って行き、牛小屋や水田に、海岸に、そして種族の住む丘陵地帯で授業を開いたのである。ボランティアはハンセン病患者とともに勉強し、目の悪い人たちが標識を読めるようにメガネを集めた。試験的なプロジェクトが発足してたった13ヵ月のあいだに、試行地域の人々の96%が字を読めるようになった。かかった費用は？ 一人あたりたった26ドルだ。

女性や少女たちが最も恩恵を受けている。学校教育のおかげで、少女たちは自分たちの将来について知識ある選択ができるようになり、売り物になる技能を取得できる。初等教育を受けた女性たちは、受けていない女性に比べて子供の数が2人少なく、女性もその子供もより長生きし、より健康に生活している。ケララの女性たちは、インドの国民平均の18

歳より遅く結婚する傾向にあり、子供の数もより少ない。2001年に、州の出生率は女性1,000人につき出生14人に減少した。これは人口そのものがもとに戻るレベルより低い。

ケララはまた、可能な範囲でヘルスケアにも投資している。地域の診療所がところどころに点在し、産児制限を無料で施行し、そして新しい母親たちに授乳や栄養について指導している。その結果、幼児死亡率は出生1,000件につき12件と低い。また開発途上地域ではまれなことに、この州では女の子の出生が男の子より多い。それは女兒が男児と同じくらい高く評価されていることを意味している。

それから、そこでは独自の「住民のための資源分布図作成プロジェクト」があり、言語の基礎知識のほかに土地の基礎知識普及をめざしている。村人たちは地形学者といっしょになって、地域の土壌や地下水面への接近度、そして地形の詳細地図をつくる作業をしている。土地で働くのは通常、女性や子供たちなので、彼らの読み書き能力や参加が成功には欠かせない。ひとたび地図が完成すれば、村人たちは何を植えればよいか、穀物をどのように輪作して行けば最適か、灌漑用に流れを変えるべきか、土地浸食を防ぐための植樹はどこにしたらよいかなどを、情報に基づいて判断できる。持続可能な農業は、地域社会の地位を向上させ、かつ豊かにするような小規模な経済構造を創出する上で欠かせない要素だ。そして、それが地球上への負荷を軽くし、より少ない資源を使う一方で、環境劣化やむだ使いを最小にするのだ。

ノーベル賞を受けた経済学者アマルティア・センは、人間が発展していくということは人間が暮らす経済界の豊かさよりも、人間生活の豊かさを推進するということだと記述している。ケララはその現実世界での実例である。



Sean Sprague/Still Pictures



C Garroni Parisi/Still Pictures



Joerg Boethling/Still Pictures



環境に対する考え方を変えた 7人の女性 Seven women *who changed environmental thinking*

MICHIKO ISHIMURE

1950年代に日本の詩人、石牟礼道子は、水俣^{みんま}の漁村の人々を悩ませていた奇妙な病気のことを聞いた。犠牲者はひきつけ、しびれ、そして言語障害に苦しめられ、しばしば昏睡^{こんすい}に陥り死んでいった。石牟礼は地方の病院を訪れ、そこで見たものに吐き気をもよおすほどのショックを受けて、1968年に出された『苦海浄土^{くかいじょうど}』の中でこの病気の恐ろしさをつづっている。そして、この問題に国家的な注目を喚起した。1959年までに、研究者たちはこの病が地域の化学工場から出た水銀によって起こされていると知っていたが、これが公式に事実と認められるにはおよそ10年近くを要した。石牟礼はこの悲劇に光を当てるだけでなく、環境の人間への影響を示す手助けをした——いつも脇役にまわる女性が国家社会において演じただけに、注目に値する偉業である。



fujiwara-shoten.co.jp

JANE GOODALL



Michel Gunther/BIOS/Still Pictures

霊長類学者ジェーン・グドールは、タンザニアのへき地でチンパンジーたちの中で暮らし、彼らの信頼を勝ち得たことで自らの研究分野を変えた。彼らがかつてそう思われていたように野菜ばかり食べるのではなく、猿や子豚などの動物を狩り、食べることを発見した。彼らが道具をつくり使用するのを、そして狂暴性を示したり互いに戦うような行為をするのを見た。そして、動物たちには別々の個性と感情があると主張した。彼女の発見によって、人類を他の動物と区別する決め手は、これらの特性を人だけが持つことだとしていた科学者は再考せざるを得なくなった。「野生生物研究・教育・保全のためのジェーン・グドール協会」は「Roots & Shoots (=根っこ&新芽)」と称する若者向けのプログラムを100か国近くで活発に展開している。

GRO HARLEM BRUNDTLAND

グロ・ハーレム・ブルントランドのリーダーシップのもとに、1987年、環境と開発に関する世界委員会(WCED)が、“持続可能な開発”を“将来の世代のニーズを満たす能力をそこなうことなく、現在のニーズも満足させること”と初めて定義した。医師として、彼女は——ハーバード大学で公衆衛生学を学んでいるあいだに——保健、人類の開発、そして環境はすべて相互関連していることを認識し始めた。ノルウェーに帰国して保健省で働き、環境相の役職につき、そのあと1981年に最年少の、そして最初の女性首相に就任した。彼女はまた、世界保健機関(WHO)の事務局長に選任された最初の女性でもある。



Hanne Hvattum

2004年のノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイは、グリーンベルト運動(Green Belt Movement) を創設した——これは女性の手で3千万本の木を植えるという草の根運動で、女性に権限を与え、環境を改善し、そして容易に利用できる持続可能な薪の資源を供給することで、生活の質を向上させる手助けをした。その過程で彼女が言うには、「女性たちは、木を植えたり森が伐採されたりするのを防ぐために闘うことが民主主義、礼節、法の遵守、人権、そして女性の権利を尊重する社会をつくるという、より大きな使命の一部だと気づくようになった」という。彼女は人に説くことを自分でも実行し、投獄されたり暴行を加えられたりしたにもかかわらず、ケニアにおける民主主義と人権のための運動を行なった。



William Campbell/Still Pictures

WANGARI MAATHAI



Friends of the Earth (Hong Kong)

緑の革命が、世界で最も人口の多いこの国で起こり始めている。そして呉方笑薇は、その扇動者のひとりだ。中国はそのはなはだしい汚染と急激に増大しつつある二酸化炭素排出のせいで、しばしば西欧諸国から非難されている。しかし、そこでは他の国がその工業化の同じ段階でやってきた以上のことがなされつつある。呉方笑薇は「地球の友(香港)」の指導者として1992年以来、この国で伸びつつある緑化運動の促進を助けてきた。そのために15の省にわたって26,500キロを旅し、86万以上の人々とふれ合ってきた。2000年には、彼女はUNEPの「グローバル500賞」を受けると同時に、中国の環境大使に任命された。

MEI NG

弁舌さわやかで、雄弁で、そして情熱的なヴァンダナ・シヴァは、インドで環境と持続可能な開発について伝統にとられない人の声を代弁するひとりだ。物理学者であり環境に配慮する男女同権主義者である彼女は、1982年に科学・技術・生態学研究財団を設立し、長期にわたって有機農業と農民の権利の擁護に努め、生物海賊行為(biopiracy)やグローバリゼーション、そして遺伝子組み換えの穀物や食糧に反対する国家の先頭に立って運動を推し進めるひとりだった。1993年、彼女は“女性と生態学を現代の開発論議の中心にすえた”功績で「正しい暮らし賞(Right Livelihood Award)」(もうひとつのノーベル賞と呼ばれる)を受けた。



Nic Paget-Clarke

VANDANA SHIVA



IISD/Earth Negotiations Bulletin

アマゾンの森林伐採は、情熱的なゴム採集業者の娘であるマリナ・シルバがブラジルの環境大臣になって以来減少した。森林でおおわれたアクレ州に生まれた彼女は、16歳になるまで正式な学校教育を受けたことがなかったが、メイドとして働くかたわら夜に勉強して、とうとう大学に入った。1988年に暗殺されて世界的な殉教者として有名になったゴム採集業者のリーダー、チョコ・メンデスとともに熱帯雨林のために闘い、そして38歳で彼女は国で最も若い上院議員となった。大臣として、彼女は政府を説得して不法に切り出された材木を押収し、不正な企業を閉鎖し、違反者に罰金を課し、また投獄した。環境防護の功績が認められ、マリナ・シルバは2007年地球大賞を受けた。

MARINA SILVA



千葉大学の環境への取り組み

～古在豊樹学長インタビュー～



環境ISO (ISO14001) を全キャンパスで取得したり、充実した内容の環境報告書を毎年発行したりするなど、環境に関して先駆的な取り組みを続ける千葉大学。こうした動きをリードしている古在豊樹学長に、TUNZA-NEAYEN JAPANのメンバーがインタビューした。

—— 持続可能な社会を作り上げていく上で、大学が果たすべき役割とは何だとお考えでしょうか。

大学の役割は変わりつつあります。かつて大学は「象牙の塔」と呼ばれ、市民からは遠い存在でした。しかしこれからの大学は、現実の世界とのつながりを強め、社会にどう貢献していくかを考えていくべきです。

20世紀、学問の世界ではどんどん細分化が進み、それぞれの分野は飛躍的に発展を遂げました。しかし一方で、歪みも生じてきました。人の心は必ずしも幸せになっていないし、環境問題をはじめ、さまざまな要因が複雑にからみ合った問題もたくさん起きてきました。こうした現実に対して、物理学者は物理学だけ、化学者は化学だけしかわからないという縦割りの学問体系ではうまく対処できなかったのです。これからは、既存の学問分野の枠を越えて、領域横断的に取り組んでいく必要があります。異なる分野の研究者が協力するのはもちろんのこと、地域住民や行政など、学問の専門家でない人々も共に取り組んでいくべきでしょう。

今の話はそう新しい視点ではなく、20年ほど前から指摘されてきたことです。しかし、実践するのはなかなか難しく、実行が遅れていました。

—— では具体的に、大学はどのようなことを実践するべきなのでしょう。

まず、大学が持つ知識を公開し、社会と共有することが必要です。今、世の中には、思い込みや無知から生じる極端な意見があふれています。たとえば、「放射線」、「農薬」、「遺伝子組換え」などと聞くと、悪いものだと決めつける人がいますよね。すべてが悪いわけではな

いのに——こうした人々に学問的研究の成果をわかりやすく説明し、適切に誤解を取り除くことは、大学が果たすべき説明責任だと思うのです。市民にも大学にもプラスになることだと思いますよ。

研究に対する姿勢も変えていくべきです。研究者は往々にして、自分の専門分野だけを使って問題に取り組みたがるものですが、それでは領域横断的な問題は解決できない。異分野間での議論が必要です。異なる専門を持つ者同士で話すと、最初は衝突します。しかし、あるところでボンと飛躍が起きる。新しい考え方がひらめくわけです。市民参加も含めた研究・教育体制を作っていくことが重要でしょう。専門家が市民の意見を受けて、新たな理論を思いつくということもあると思います。聞いた話では、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は、俳句をヒントに中間子理論を思いついたといいますね。

—— 千葉大学ではどのような取り組みを進めていますか。

まず大学自体がより環境にやさしくなるよう、取り組みを進めています。私の就任以降、光熱水道費を1億円削減しました。柏市にある柏の葉キャンパスでは、正味の二酸化炭素排出量をゼロにしようとしています。研究活動のために電気やガスを使う一方で、二酸化炭素を吸収する植物を育てたりしているのです。私自身も、古い学長車を使って通勤するよう就任時に言われましたが、環境に悪いし無駄なので、歩いて大学に通っています。

環境関連の研究も多く進めています。柏の葉キャンパスではハウスメーカーと提携して、環境と健康をテーマにした「ケミレスタウンプロジェクト」(化学物質の少ない街づくり)に取り組んでいます。東洋医学の漢方・鍼灸も取り入れたりしながら、さまざまな面から住む人の健康をサポートする試みです。研究者だけでなく、学生も参画しています。

社会に対する情報公開も進めています。まず、何でもウェブサイト
に載せるようにしています。1円単位まで資金の用途を明らかにして
いる大学はほかにないですよ。市民向けの公開講座や講演会、研修
会なども積極的に開催していますし、学会での報告もしています。

千葉大学の産官学連携と地域連携

コソコ産学官千葉支部設立総会

千葉大学長 古在豊樹
産学連携・知的財産機構長 天野洋
2007年3月22日
ホテル スプリングス幕張

領域横断的な内容の
教育にも取り組んでいま
す。たとえば昨年度から
は、「世界の貧困問題を
いかに解決できるか」と
いう教養課程向けの講
義を始めました。始め
る前は一体どれだけの
学生が興味を持ってくれるだろうかと思っていたのですが、ふたを開
けてみたら300人を超える学生が集まり、驚きました。講師の方も、
NGOや国際機関の職員など現場で働く人たちが、ぜひ話したいと名
乗りを上げてくれました。あまりに反響が大きかったので、「地球福祉
研究センター」という専門の研究拠点を設立し、公共哲学・公共政策
の観点から持続可能な社会についての研究を推進するようになりました。
こういう講義は既存の学問体系の枠からは外れたものですが、
学生にとっては興味深いようすし、学生が感動できる講義というの
は学問としても前進する可能性を持った内容なのだろうと思います。

—— 学生に対しては、どのように働きかけて いるのでしょうか。

学生参加型、学生主体型の教育・研究を進めていくことを大切に
しています。私が学長になったばかりの頃、教員や職員の多くは学
生を管理の対象として見なしていました。しかし本来、学生は大学の
主役のはず。学生が能動的に参加する機会を増やし、学生の主体的
な行動をサポートすることこそが大学の役割ではないか、と考えまし
た。そこでまず、学生が学長室に入り、自由に意見を言うことができ
るようにしました。学生との懇談会も30回以上開いてきました。こうし
た取り組みがだんだん定着してきて、今では私のもとに直接、学生か



紙のリサイクルも積極的に行う

らの提案メールが続々届くようにな
っています。

いい提案はどんどん実現させて
います。学生が企画・運営を担当
する講義も登場しました。つい最
近では、紙を3種類に分別し、紙
のリサイクルを促進する取り組みも
始めました。

面白いものとしては、サッカーのオシム監督を招待するという提案
がありました。千葉大学はジェフユナイテッド市原・千葉と提携してい
るのですが、そのことを活かして学生たちが講演会を企画・実施した

のです。これは大盛況でしたね。誰も居眠りしないし、質問もどんど
ん出ていました。運営する学生にとっても、大変いい経験になったよ
うです。同様に、野球の千葉ロッテマリーンズとも提携しており、バレ
ンティン監督の講演会も行なわれました。プロスポーツチームとの提
携なんて大学のすることじゃないという声もありましたが、ジェフの取
り組みを題材にして論文を書きたいという学生も出てきました。研究
フィールドが広がることにも
つながったのです。



環境ISOを取得

オシム監督を囲んで



学内のさまざまな活動を、学生に任せられるようにもしています。環境
ISO認証の取得や環境報告書の作成には、環境ISO学生委員会の約
200名のメンバーが大きく貢献しています。最近千葉大グッズを売り出
しているのですが、これも学生がデザインを担当しています。

学生の自主的な取り組みも盛んです。たとえば、千葉大学には「再
転車(りてんしゃ)」というサークルがあるんですが、この学生たちは
学内にたくさんの自転車が放置されているのを見かねて、自転車の
リサイクルをやっているんですよ。面白いことを考えつくものだと思
いましたね。

こういった新しい取り組みに対して関心を抱いてくれるのは、今の
ところ、学生にしても教員にしても、全体の10%というところですよ。
もちろんある程度の反感も買いますよ。ただ、抵抗勢力がブレーキ役
を果たし、行き過ぎを抑えることも大切です。関心を抱いた層から
徐々に効果が波及していくというのが、望ましい変化のあり方ではな
いかと思っています。

—— 最後に、TUNZA読者の皆さんにメッセージを お願いします。

これからの時代は、従来型の科学だけでは生きていけません。こ
れまでの知的蓄積をしっかりと踏まえつつも、それらを応用する力、
問題を発見し解決する力が必要です。そういった力を養うためには、
自分からどんどん行動を起こし、さまざまな体験を積み重ねていく
ことが大切です。千葉大学では、学生の皆さんがアクションを起こしや
すいフィールドを用意しています。

インタビュアー/
斗ヶ澤海
(東京工業大学4年)
菊地理美
(東京大学4年)
仲谷貴志
(立正大学3年)





北東アジア青年環境ネットワーク TUNZA-NEAYEN

TUNZA (ツンザ)とは、国際的な青年環境ネットワークを築くとともに、UNEP (国連環境計画)の意思決定に直接かつ民主的に青年の声を反映させる目的のもとに設立されたUNEPのプログラムです。

TUNZAは世界を複数の地域に分けており、北東アジア地域では、中国、日本、韓国、モンゴルの4ヶ国がTUNZA-NEAYEN (TUNZA North East Asia Youth Environmental Network)を構成しています。毎年1度、各国の青年環境・開発団体の代表が集う地域会合が開かれ、各国代表団の中から2名をその国の代表として選出し、その代表たちは数ヶ月後に開催されるTUNZA国際会議に出席します。TUNZA国際会議でさらに代表を選出し、会議で話された内容をUNEPの理事会へ報告します。

TUNZA-NEAYENの意義は、大きく以下の三つに分けられます。一つ目は、持続可能な発展における主要なアクターである青年が、その意見を直接UNEPの意思決定の場へ持ち込めるという点です。本来UNEPは国連機関の一つなので、その政策はおもにUNEP職員と各国公務員および政治家の意思によってかたち作られてきました。しかし、TUNZAはそのようなステップを踏むのではなく、

UNEPの最高意思決定機関である理事会へ、直接青年の声を届けることを可能にします。またUNEPだけではなく、UNEPをサポートする各国の公務員や政治家へも、その声は届くことになります。TUNZA国際会議で採択される声明文が、どの程度実際のUNEPや加盟各国の政策に反映されるかは現時点ではわかりませんが、少なくとも、草の根で活動する青年の声を直接的に意思決定の場へ届ける道が開かれたという点において、TUNZAは大いなる意義を有しています。

二つ目は、国際的な青年の環境ネットワーク形成が促進されることです。会議の過程では、各国代表団がそれぞれの国の青年による環境活動を発表するので、各国の代表は他の国の現状を知ることができます。また、会議内外を問わず、会議期間中は活発な情報交換が行なわれるので、国際的なプロジェクトが生まれる可能性も十分にあります。このような機会は、ともすれば国内にばかり目が向きがちな青年環境団体にとって、非常に重要であるといえます。他国の青年環境団体の活動を知ることで自分たちの活動へフィードバックできることもたくさんありますし、他国の活動をサポートできる可能性も発見できることでしょう。このような青年間の連携は、国や企業レベルの活動とはまた違った側面から、持続可能な社会の達成を押し進めると思われます。

最後に、将来持続可能な発展に関連する分野で活躍する青年の育成です。会議の一連のプロセスを通して、各国の青年は、会議テーマに関する知識、国際会議における意思決定プロセス、そして違う言語や文化社会的背景を持つ青年たちとのコミュニケーションにいたるまで、さまざまな経験を積むことができます。地球規模での環境問題が悪化の一途をたどる現状において、国際的にリーダーシップを発揮することのできる人材は今後ますます重要となります。そのような人材を育成する場として、TUNZAは大きな役割を果たすことでしょう。

※エコ・リーグは日本の窓口団体として地域会合の運営に毎年参加し、国際的なプロジェクトの促進・運営に努めています。



第3回 北東アジア青年環境ネットワーク会議開催概要

- 【会議日程】 2007年9月17日(月)～21日(金)
- 【開催場所】 千葉大学、BumB東京スポーツ文化館
- 【主 催】 国連環境計画 (UNEP) TUNZA-NEAYEN運営委員会
- 【参加人数】 日本20名、韓国、中国、モンゴル各10名

TUNZA-NEAYEN JAPANは随時活動メンバーを募集しております。
連絡先：global@eco-2000.net

持続可能な社会をめざして

私たちは  UNEP (国連環境計画) の活動をサポートします。


Aiming at sustainable society

We support the work of  UNEP (United Nations Environment Programme)

(特別協賛サポーター) (五十音順)

 キヤノン株式会社

 サカタインクス株式会社
Visual Communication Technology

 三和シャッター工業株式会社

 情報産業労働組合連合会

 T&D T&D保険グループ
 太陽生命  DAIDO 大同生命  T&Dフィナンシャル生命

 東レ株式会社

 日本パレットレンタル株式会社

 Bayer バイエル株式会社

 富士フイルム株式会社

(協賛サポーター)

株式会社アースシップ

いっしょなら… together...



われわれはもっと上手に地球に気配りできる
we can take BETTER care of the Earth